

# イヌ礼賛

東 田 潔 (春秋会)

## 1. はじめに

かつての“戦友”荒井先生から、FACEBOOK&メールという絨毯爆撃（本原稿執筆の厳命）によって、あえなく陥落、軍門に下りました(笑)。近頃、コミュニケーション手段が重畳化しているせい、合理的に「知らんぷり」するのも、かなり難しくなってきたております（閑話休題）。

## 2. イヌと人間の関係

ところで、なんでもセグメント化したがる分析ブリークというのは、疎ましがられるタイプの上位にランキングすると思いますが、ペットという切り口でよく使われるセグメントといえば、イヌ派とネコ派です。もちろん、最近、ペットも多様化していますから（爬虫類とか、昆虫とか、僕には、キワモノとしか思えないペットまで「有り」になってきて…失礼）、あまり、声高にイヌ派だの、ネコ派だのと主張すると、たちまち、マイノリティーから舌鋒鋭く攻撃をくらう可能性があります。

しかし、イヌは、ペットの歴史という系譜において、おそらくもっとも初期から存在した動物で、人間との親和性はピカイチだと思います。

イヌのペット化の端緒は諸説があるものの、有力説は、番犬説だと言われています。イヌは、人間の食い散らかしをもらって狩りの手間を省く見返りに、危険な動物が近づくと人間にアラートを出していたという、近年の警備会社さながらのビジネスモデルをなんと3万年も前から実践していたらしいのです。見方を変えると、食物連鎖の頂点である人間に寝返るとのこと、すなわち、人間以外のあまたの野生動物から裏切り者という誹りを受けかねない大英断をイヌの祖先達はあっさりとして下していたのです。楽しんでえさを手に入れるという、目先の利便性のため

には、なんでも有りでっせ、みたいな感じ、なかなか、ヒューマンな温もりを感じざるを得ません（そういや、スパイのことを「敵のイヌ」なんて言いましたっけ）。

最近は、そんなユーザフレンドリーなペット（イヌに限りませんが）のことをコンパニオンアニマルと言うそうですが、典型的な昭和オヤジ世代の僕は、悲しいかな「コンパニオン」という響きで本能的に違う反応をしてしまうので、この命名はあまりよくないと思っています。話が怪しい方向に行きかけてしまいましたが、僕なりのイヌ派礼賛的なものを書きたいと思います。

## 3. イヌと暮らすことの功罪の「功」

僕の趣味傾向は、マイノリティー嗜好が強いため、なかなか思いを分かち合う人に巡り合わないのですが、イヌという共通言語だけはマジョリティーであるために、幸いそうしたストレスを解消させてもらえます。早い話、イヌを連れて散歩すると、最低1回はイヌ連れに人に出くわすわけですが、初対面でも略100%挨拶することが慣例化されています。因みに、イヌも連れずに、通りの反対側を歩いている若い娘にあいさつでもしようものなら、即刻変態扱いされるということは想像に難くないと思います（俗にこれを「ナンパ」と言う）。よって、イヌが介在するということは、人のコミュニケーションを促進するという効果があると思います。尤も、イヌを隠れ蓑に若い娘に接近しようという、あざといことをするやつもいるかもしれませんがね。

また、犬種によって、若干の差はあるものの、概ね忠誠心が強く、飼い主と他の人とをしっかりと区別する力を持っています。残念ながら、かの忠犬八千公には異説もありますが、飼い主をひたすら待つ

という逸話は枚挙に遑がありません。昨今話題の離職率が高いブラックと呼ばれがちな業界の経営者にとっては、イヌの健気な姿を見るにつけ、イヌの忠誠心をエキスにして、こっそり従業員に飲ませたいなんて気持ちになるにちがいありません。

さらに、大方のイヌは、喜怒哀楽の表現がストレートです。やはり、喜怒哀楽の表現はストレートな方が良いと思います。彼らを見ていて、自分ももっとストレートに正直に感情表現できたらなあ、と思います（本項の冒頭でも書いた通り、僕の趣味は結構マイノリティー嗜好が強く、そのせいか性格まで屈折しているかもしれません）。

#### 4. 発見、そしてツールの開発

前記3. のタイトルから、次は「イヌと暮らすことの功罪の「罪」になるのが自然な流れでしょうが、別に本稿は学术论文でも明細書でもありませんから、論旨なんかどうでもよいと思いますので「罪」は書きません（笑）。

イヌの喜怒哀楽の話がでたところで、イヌの表現力について書きたいと思います。よく、「目は口ほどにものを言う」などと言いますが、僕の40年近いイヌとの付き合いから得られた所見を述べると、イヌの場合、「後頭部は口ほどにものを言う」ということがわかってきました。

イヌの後頭部を観察すると、概ね「今何を考えているのか」がわかります。これは、僕が特殊な能力を持つエスパーなのではなく、長年の付き合いで傾向値がわかってきたという、統計学的知見によるものです。尤も、現状、どの犬種でも様にわかっていく傾向があります。したがって、正確に言うと、後頭部と耳とのコンビネーションで彼らの感情を推察することになります。現時点では、警戒、油断、怒り、哀切、歓喜はだいたいわかる域に達しています。今後、さらにデータを蓄積して、後頭部の画像解析からイヌの感情をリアルタイムに出力する「イヌの読心ツール」（商標未定）を開発する予定です。

かつて、タカラから「バウリング」なる究極ツ

ルが出た時には「先を越された！」と思ったものです。

ところが、某ユーザがバウリングでYouTubeのお怒り犬を解析しているブログ（iPhone版バウリングで怖い犬が何て言ってるか調べた）を見ると、“むきっ歯”のイヌが、同機の翻訳では、「お手てつないで欲しいな」「好きだけじゃ、ダメですか？」という明らかな誤訳をしており、僕の後頭部解析ツールも後塵を拝したとはいえ、まだまだ参入可能だと思っているところです。このツールが完成した暁には、申し訳ないですが「平成のドリトル先生」を名乗ることとしておりますので、その節は宜しく願います。

（あの、書くまでもないとは思いましたが、後頭部解析ツールの話はウソですから、念のため。でも、僕は、イヌの後頭部愛好家、もう少し際どい言い方をすれば、後頭部フェチなのは間違いありません。）

#### 5. 最後に

所定字数域に達したのでまとめに入りたいと思います（笑）。

ここ数年、団塊世代が引退し始め、老後のパートナーとしてペットを飼う家庭が増え、今後のペット市場は拡大の一途をたどると予測されてきましたが、矢野経済研究所の調査データによれば、ここ数年、ペット関連市場規模は横ばい状態で、2011年、小売りベースで1兆4033億円（2011年）規模とのことでした。

ペット保険、プレミアムフード、介護関係など、ペットの高齢化を見越して、期待される成長分野もありますが、全体的には一服感が漂っているようです。

ただ、ペットの生体売買は、物の売買とは一線を画さなければならないと思います。特に、生体量産のターゲットとして売れ筋のイヌは、いろいろな問題を提起していると思います。ペットの中でもメジャーな存在のイヌの飼い主は、アンチペットの方々との共存も含め、ペットに関するモラルの確立に積極的に動いていかなければならない使命があると思っています。

（「NPO法人湘南にドッグランをつくる会」に参加しています。興味にある方は、是非ご参加ください。）

# マンション管理組合理事体験記

平田 学（春秋会）

## 1. きっかけ

もうずいぶん前のことですが、マンションの管理組合理事を務めました。マンションといっても、郊外にある築年数も進んだ400軒以上の画一的な住居の集合する建物で、今どきのマンションとは違うのですが、高層の大規模集合住宅という意味で、便宜上マンションと呼ぶことにします。私はその一室を中古で購入しました。

分譲マンションを購入すると建物の区分所有者となり、管理組合の一員、すなわち組合員になります。マンションを買ったのに管理組合の組合員にはならない、ということはできません。

通常、管理組合の執行機関として理事会というものがああります。大多数のマンションでは、理事会役員（理事・監事）は、組合員が持ち回りで担当することになっていると思います。私は入居後数年で運悪く抽選に当たってしまったわけですが、それまで管理組合の活動に一切関心もなく、なぜ自分がやらなくてはいけないのかとも思いましたが、断る適当な理由も見当たらなかったもので、仕方なく引き受けることにしたのです。

## 2. 理事になる

縁あって同僚となった14名の理事たちは、普通のサラリーマンがほとんどでしたが、年金暮らしの人や夫の代わりに活動する奥さんなどもおり、年齢もさまざまでした。本音はいいやいやながら引き受けたとはいえ、実際の活動では懸命に働く頼もしい仲間でした。

マンション管理組合には、業務執行機関の理事会や最高意思決定機関の総会などがあり、管理組合の憲法ともいべき管理規約があります。たかが一つの小さなコミュニティの内部のことですが、意外にも厳格で、引継を受けた先輩理事からは、中途半端

な気持ちでは務まらないとの心構えを聞かされました。

分譲マンションの管理は本来、管理組合の責任で行われるべきものです。管理会社には、清掃や蛍光灯の交換といった日常の管理業務を委託しているわけですが、それにとどまらず、本来の管理業務は長期修繕やその先にある建替えなど、その範囲は無限に広がり、ここでも管理会社が関わってきます。理事会など所詮は素人集団で、任期もせいぜい数年ですから、管理会社に主導権を握られて、いいようにあしらわれないようにしなければなりません。マンションの価値を上げるも下げるも管理組合すなわち理事会のメンバー、そして最終的には組合員全体の意識に大きく左右されることとなります。管理意識の高い人が多く住んでいるのが価値のあるマンションということができます。

役員になることは組合員の義務ですが、ボランティアでもあります。しかし、トラブルを起こした人からは、「お前らは俺達の払った管理費で生活しているんだろ。俺達がお前らを食わせてやってるんだ」などという理不尽なことを言われたりもしました。そのような人たちは決して理事を引き受けたりはしません。

## 3. 活動

私の場合、同僚の理事たちは幸いに意識の高い信頼できる人たちでしたので、隔週土曜夜の理事会は熱気に満ち、深夜まで議論することもありました。多岐にわたる理事会の任務のうち私の関わったごく一部をご紹介します。

### （1）自殺防止対策

そのマンションの長年の懸案事項だったのが自殺対策です。古い物件なのでオートロックなどなく誰でも自由に出入りでき、しかも高層建物です。このため、死に場所を求めてくる部外者もおり、自殺の

名所とまでいわれたこともありましたが、実際、私も入居後何回かそういう場に遭遇しました。歩いていたら数メートル後ろに人が落ちてきたという同僚理事もいました。これでは安心して暮らせません。そこで、修繕積立金で防護ネットを設置しました。ネット設置前は住民から反対もありましたが、ネット設置の効果はてきめんで、実行力のある理事会だったと感謝されたのはずっと後のことでした。

## (2) 建物のメンテナンス

分譲マンションでは毎月の管理費や修繕積立金などを管理することが最重要任務の一つですが、毎回必ず滞納がありました。中には100万円以上を滞納したまま引っ越して行ったケースがあったのですが、不動産仲介業者から取立に成功したこともあります。

何といても最大の懸案は、長期修繕計画に基づいて大規模修繕を行うことです。そのような修繕時期にたまたま当たった理事は大変な苦勞をするはずで

す。建物は新築された時から劣化が始まります。新築マンションならばばらくは気にしなくても大丈夫でしょうが、10年に1度くらいは大規模修繕をしてマンションの価値と住環境を守っていかなければなりません。

前述のように、管理会社はその物件を販売した不動産会社の子会社などが多く、長期修繕計画なども用意しています。不動産会社は、物件を販売だけでなく子会社を通じて修繕でも稼ごうというわけです。それが悪いとは思いませんが、あまりに高額な費用を提示されることがあり、その場合、大規模修繕は別の業者に依頼することも普通に行われています。

## (3) 大規模修繕の盲点

そんな状況で独立系の業者が参入する余地が生まれます。マンションという共同住宅はある意味、自分のものであって自分のものではないという状況にありながら、多額の積立金を抱えています。そして理事会は素人集団です。おいしい金儲けができそうです。

私の理事の任期中には幸い大規模修繕はなく、まだ計画段階でしたが、色々なオファーが舞い込みました。その中に、ボランティアで建物診断をするNPO法人という触れ込みの業者がありました。建物診断は大手に比べて格安、安くても良い仕事をする施工業者を責任をもって紹介する、との触れ込みでした。

普通のビジネスシーンなら、そんなにうまい話があるわけがない、絶対怪しい、と思うわけですが、いかんせん素人がいやいや引き受けた理事会役員です。工事のことなど聞いてもわからないはずなのに説明もツボを心得ており、任せれば万事安泰で、これなら楽もできるし責任も負わなくてすみそうな気になるから不思議です。そのため、実際にそのNPO法人と建物診断の契約をしてしまうマンションも少なからずあったようです。幸い私たちはたまたまその業者の噂を聞いていたため排除することができました。ただ、その業者は一部の住民に食い込んでいたらしく、陰險な圧力もありました。

理事会は区分所有者から財産の管理を付託され、大金を預かっています。うまい話に踊らされず、相応な金額を払って信頼できる業者を選ぶことが結局はマンション全体、ひいては自分自身を含めた全区分所有者の利益になるはずで

## 4. 理事を引き受けよう

私もそうでしたが、管理組合の活動などに興味もなく、人任せにしているという方がほとんどかと思えます。しかし、自分の財産や住環境は守りたいものです。

素人の無知につけ込んで組合の巨額の積立金を虎視眈々と狙う業者がいます。わけのわからないことを言う居住者もたくさんいます。

ですから、分譲マンションにお住まいであれば、ぜひ理事を引き受けて活動されることをお勧めします。共同の財産と住環境を守る理事会の業務には、物事の道理を弁えた弁理士こそまさに適任です。マンション管理組合の理屈などは、特許法に比べれば何の造作もないことです。ましてマンション管理士などに頼る必要もありません。

ここでご紹介したことは私の経験した理事会活動のほんの一部にすぎず、あまりにも多くのことを経験してしまいました。このため、私自身はマンション生活に気疲れしてしまい、今は戸建てに住んでいます。ですから、本当はあまり大きなことを言えた義理はありません。

分譲マンションにお住まいの方々のマンションライフが豊かで穏やかであることを願ってやみません。

# アキレス腱断裂と リハビリについて

石川 徹 (春秋会)

## 1. はじめに

私は、趣味でホッケーを行っていますが、昨年、ホッケーの練習中にアキレス腱を断裂しました。今回は、アキレス腱断裂からリハビリを経てホッケーを再開するまでのいきさつを投稿します。

## 2. アキレス腱断裂～手術

アキレス腱の断裂は、昨年の3月予告なしに起こりました。ホッケーのミニゲームで走っていて、方向転換をしようとした時に、右ふくらはぎにバスケットボールをぶつけられたような感覚があり、そのまま倒れました。

その後、病院でアキレス腱断裂と診断され、入院、2日後に手術となりました。手術は1時間半ほどで終わりました。手術中は麻酔が効いていたものの、切れたアキレス腱を伸ばして接合する時の痛みは相当なものでした。また、麻酔が切れた後の患部の痛みがひどいため、痛み止めを飲んでいましたが、痛みが引かないため飲みすぎてしまい、看護師さんに怒られました。

## 3. リハビリ開始

右足は膝から下がギプスで固定されており、完全に外れるまで6週間かかるとのことでした。ギプスが外れるまでは左足と松葉づえを使っての移動になるため、松葉杖による歩行訓練のリハビリが始まりました。また、右脚にギプスを着けることで、右脚の筋肉が落ちるため、ギプスで固定されていない右太ももの筋力トレーニングも行いました。

## 4. ギプスが外れた

右脚のギプスが外れ、右脚に少しずつ体重をかけてのリハビリが始まりました。はじめは15kgまで右脚に体重をかけて歩く練習、階段を上り下りする練習をしました。また、右ふくらはぎの筋力が落ちているため、右ふくらはぎの筋力トレーニングも開始しました。

歩く練習は、階段の上りは割と容易にできたのですが、階段の下りで右脚に体重をかけることが上手にできず、階段の下りで時間がかかりました。

また、右ふくらはぎの筋力トレーニングとして、爪先立ちを行いました。爪先立ちのトレーニングを正しく行っていなかったため、予想以上に時間がかかりました。ふくらはぎを鍛えるためには、足の指の付け根を曲げずに爪先立ちをする必要があるのですが、この付け根を曲げて爪先立ちをしていたため、足の指を動かす筋肉に負荷がかかり、ふくらはぎに十分な負荷がかからなかったのです。ふくらはぎの筋肉がなかなか戻らないことを、リハビリの先生に指摘していただいて、初めて気づきました。

## 5. 再開

4か月にわたるリハビリが終了し、9月から軽い運動を開始しました。全力の5割くらいでのダッシュとストレッチを行い、ホッケーの練習も負荷の軽いものから行っていきました。年明けからはほぼフルメニューで練習を行うようになりました。

今年の8月段階では、ダッシュはアキレス腱断裂前の8割程度ですが、ストップや方向転換はまだ怖さがあり、ゆっくり行っています。チームメイトからはアキレス腱の断裂で足が遅くなったと言われていますが、もう若くないからと自分に言い聞かせて、無理をしないようにしています。

## 6. 終わりに

今回のアキレス腱断裂で学んだことは、「若い者にはまだ負けない」という気持ちで頑張ると、時に大げかになるということです。スポーツをしているので、目の前の相手に負けたくないという気持ちは大事なのですが、今回のケガで「無理するな」と自分に言い聞かせることも大事だということを感じました。以上、簡単ですが、私の「アキレス腱断裂とリハビリについて」を終わります。

# ジブリとボク

塚原 憲一（春秋会）

## 1. はじめに

今年の初め、私は普通自動二輪の免許を取得しましスポーツ選手の引退宣言は割とあるけど、映画監督がってのは珍しい。この人は今までも何度か引退宣言をしているけど、今回は本気っぽいし、ちょっと気になる。

そこで、今回は、ボクなりに宮崎作品を振り返ろうと思う。あまり知財に関係ないけど、何書いても良いと言われているので構わないだろうし。と言うか、正直、他にネタもない。

## 2. 黄金の1980年代

さて、ボクの初の宮崎作品は、小学生のときに見た「風の谷のナウシカ」だ。驚いたのなんのって。最初から最後まで銀幕に釘付けだった。王蟲？ 腐海？ 巨神兵？ 意味が分からないがスゴい！ と感動したもんだ。

あまりに面白かったんで、宮崎駿の作品は必ず見るようにした。だから、「ルパン3世 カリオストロの城」はビデオで借りて見たし、「天空の城 ラピュタ」、「となりのトトロ」、「魔女の宅急便」は、中学生の少ない小遣いをやりくりして劇場に足を運んだ。

ちなみに印象に残っているのが、「となりのトトロ」の劇場ロビーの光景だ。チケットを購入して劇場に足を踏み入れたら、あちこちで家族連れが泣き崩れている。まるで玉音放送を聞いた帝国臣民のようだ。

実は「となりのトトロ」は「火垂るの墓」と同時上映だった。明るく楽しい「となりのトトロ」を先に見た場合、「火垂るの墓」でどん底に落とされるから堪ったものではない。幸い、ボクは最後に「となりのトトロ」を見たので社会復帰できたが、一步間違えればロビーに倒れていた可能性もある。人生、

何が幸いするか分からない。

しかし、それにしても1980年代の宮崎作品は素晴らしかった。多感な思春期に宮崎作品を劇場で楽しめたのは、人生にとって大きなプラスだったと思っている。

## 3. そして1990年代

宮崎駿は、1990年代は2本しか映画を撮っていない。「紅の豚」と「もののけ姫」だ。「On Your Mark」という映画もあるけど、たった6分の実験作的短編映画なので、ここではカウントしない。

「紅の豚」は評価が分かれる。実は宮崎駿は軍事マニアで戦闘機が大好き。そんな彼の趣味を爆発させたのが「紅の豚」だ。だから、戦闘機のせの字も知らない一般人は置き去りにされかねない。

ただ、ボクとしては「戦争なんて下らないものは豚以下の人間どもにやらせておけばいいのさ」というシニカルなメッセージ性を持つ良質のエンタメ映画だと思うんだけど。

で、次の「もののけ姫」だけど、ちょっと難解すぎるくらいがあった。正直、ボクもかなり戸惑った。この時期の宮崎駿は、かなり悩みぬいて映画を作っていたと思う。何度も繰り返して鑑賞して、宮崎駿のインタビュー記事や解説記事を読まない作品を理解できない。そうなったのも、この作品からだ(下手すると、特許法の条文を理解するよりも難しいぞ)。思えば、この頃からマスコミでも巨匠と呼ばれるようになった気もする。

## 4. 21世紀に突入

そして21世紀に突入して作ったのが「千と千尋の神隠し」だ。これは衝撃的だった。その独自の世界観に圧倒され、何度も劇場に足を運び、DVDも購

入した。そしたら、DVDの色調がおかしくてガッカリしたっけ。

ところが、「ハウルの動く城」と「崖の上のポニョ」で失速し、ちょっとガッカリ。年齢には勝てないかと思っていたら、「風立ちぬ」で復活したという感じだ。「風立ちぬ」は現在公開中なので、是非、鑑賞してほしい。遺作ということで、かなり作家性の濃い異色の作品となっている。

## 5. 最後に

こうして振り返ると、「風の谷のナウシカ」が1984年公開だから、30年近くもファンをやっているんだな～。2歳の息子が「となりのトトロ」のDVDに反応して踊っているのを見ると、ついに世代をも越えたかと感動してしまう。この調子で孫の代まで楽しみたいもんだ。

## 旅先としてお勧めする国の紹介

植 田 晋 一 (稲門弁理士クラブ)

### はじめに

旅の仕方はそれぞれの人に依じて様々である。私は、沢木耕太郎の深夜特急や、猿岩石によるユーラシア大陸横断などに影響され、バックパックを背負って海外旅行をした若者の一人であった。何ヶ月という期間の旅ではなく、1～2週間の期間での旅行が多かったが、そのようにして行った旅行先の中で、あまり有名ではないが、大変楽しく旅先としてお勧めする国を3つ紹介したいと思う。

### カンボジア

カンボジアは、タイとラオスの間に位置し、日本から近いこともあり、なじみのある国である。私は1997年と2004年との2回訪問した。

カンボジアにおける最大の見所はアンコールワットである。アンコールワットは、カンボジア国旗にも描かれている遺跡であり、外周が1.3km×1.5kmと巨大である。また、アンコールワットの周辺には多くの遺跡があり、97年訪問時には、3日かけて駆け回ったが全ての遺跡を回ることはできなかった(ただし、3日目くらいには全て同じように見えてくる)。アンコールワット遺跡群から少し離れた場所にも、天女のレリーフが美しいバンテイアイスレイや、最近、観光が可能となったベンメリアなどの見応えのある遺跡もある。

97年においては、アンコールワット観光の拠点となる町であるシェムリアップには国際線が未就航であった。そのため、私は、カンボジアの首都プノンペンに空路で入国し、その後、シェムリアップまで移動しなければならなかった。プノンペンまでの飛行機には、私を含めて4人しか乗客はおらず、私の人生で最も乗客が少なかった飛行機である。

また、内戦中には、一ノ瀬泰造氏が、ポルポト派

の支配下にあったアンコールワットの撮影を試みたが、残念ながらポルポト派に捕えられ殺害された。一ノ瀬氏の墓はアンコールワットの近くにあるし、一ノ瀬氏が通ったバンテイアイスレイレストランも現存する(私も何度か食事をとった)。アンコールワット訪問前に、書籍や映画などを通じて一ノ瀬氏のことを知っておけば、アンコールワットから単純な観光地以上の魅力を感じることができのかもしれない。

アンコールワットは観光地としてのレベルは高く、人も穏やかであり、経済発展中の力強いカンボジアは、とても魅力的だ。また、未だ日本から直行便はないが、距離が近いこともあり、旅先としてお勧めしたい国の一つである。



アンコールワット (97年)

### イエメン

イエメンはアラビア半島に位置し、サウジアラビア、オマーンと隣接し、また、ソマリアの対岸に位置する国である。最近の報道によれば、イエメンは政情不安のようである。私がイエメンを訪問した2004年においても、ニューヨーク同時多発テロ後であり、観光で訪れる人は少なかった。しかし、イエメンは、アラビア半島に位置するにも関わらず石油が産出されず、人々が昔ながらの古き良きアラビアの生活をしていると聞き、私はイエメンに行くことにした。

イエメンへは、タイ、バーレーン経由で渡航した。タイからイエメンまでは、日本未就航のガルフ航空を利用したが、エコノミークラスなのに、歯ブラシや機内用のアメニティが配られ快適であった。さらに、経由地の一つであるバーレーンでは、ピカピカのトランジットホテルに無料で宿泊することができ、産油国は飛行機会社もお金があるなという印象を受けた。

イエメンで一番の観光地は、首都サナアのオールドタウンだと思う。イエメンは地震が少なく乾燥しているため、数百年前に建てられた建物がたくさん残っており、特に、オールドタウンは幻想的な雰囲気を出している。夜はまさにアラビアンナイトの世界であり、また、明け方のアザーン（礼拝の呼びかけ）は聞きながら見た街並みは、とても思い出に残っている。

また、イエメン人の親切さは、抜群である。イエメンのレストランの多くは英語メニューがなく、また、店員の多くも英語が喋れないため注文ができない。そのため、他の客が食べているものを覗き、同じものを注文しようとするのだが、覗くと、だいたい「いっしょに食べよう」と言われる（アラビア語がわからないがそのように聞こえる）。そして、そのような場合に、食事代を渡しても受け取ってもらえなかった。

2004年頃は観光客も少なかったようで、歩いていただけで、子供だけでなく大人からもしょっちゅう声がかかる。皆、物珍しそうに私を見て、勇気のある子供はちょっかいを出してくる。町を散歩するだ



サナアのオールドタウン

けで楽しく1日が過ぎた。

また、イエメンは、昔の日本の侍のように腰に刀（飾りのため、切れない）をさしており、少し懐かしさを感じる。イエメンは、古き良きアラビアが残り、アラブ人の親切さを実感できる素敵な国である。

## ウガンダ

ウガンダは、アフリカの中央部に位置し、東はケニア、南はタンザニア、ルワンダ、北はスーダン、西はコンゴ共和国に隣接しており、海とは隣接しないがナイル川の源流の一つであるビクトリア湖の一部をその領内に有する国である。最近では、アフリカの中でも日本が重点的に支援を行っており、報道で目にする機会が多い。2008年に、友人が青年海外協力隊で派遣されていたため、その友人を訪ねてウガンダに行くことにした。

ウガンダへは、香港、南アフリカ経由で渡航した。なお、ウガンダの国際線就航都市は、エンテベという、首都カンパラから車で1時間程の場所である。首都カンパラにも空港はあるが、民間利用はされていないとの話だった。

乗り換え地である南アフリカの大首都ヨハネスブルグにて、時間があつたため観光をした。治安が大変良くないとされていたため、空港でタクシーをチャーターしたが、ガイドをしてくれたドライバーも、これは銀行“だった”とか、証券取引所“だった”というように、治安の悪さが目立つ。ゴーストタウン化した巨大なビルは不気味であった。

ウガンダ滞在中は、他の隊員の派遣先の訪問や、アフリカ観光らしくサファリやラフティングなどをした。しかも、全て現地滞在の友人がアレンジしてくれ、大変楽しい旅行であった。

隊員の職場の一つである、ムパンガ森林公園を訪問させていただいたのは、記憶に残る大変貴重な経験であった。ウガンダでは森林などの自然環境の保護があまり行われておらず、派遣されている隊員は、植生の調査、ガイドとしての観光客の受け入れ、また、自然保護活動の市民への啓蒙などが行っていた。

私もその森林公園で宿泊させていただいた。電気も水道も通っていないような場所ではあったが、宿



ムバンガ森林公園

泊したコテージは大変きれいであった。日本人隊員の指導の下で作られたおいしい料理を、星空の下でランプの明かりで照らして食べたのはとても記憶に残っている。また、高級家具材として知られるマホガニーが自生しているのも見る事ができた。マホガニーの特徴を何度も説明を受けたが、私にはその特徴が全くわからず、このようなものを密猟者がどのように見つけるのか不思議であった。

アフリカと言うと飢餓のイメージを持つ方も多いと思うが、私は、そのようなイメージは持たなかった。ウガンダは降水量が多く、主食の一つであるバナナ（緑色のバナナであり日本で売られている黄色のバナナとは違う）の成長ペースが早い。また、野

菜の収穫量も多いようで、街道では売り切れる前に腐るのではないかと思うくらい大量のトマトやキュウリが売られていた。

行ってみないとわからなかったことが一番多かったのがウガンダであった。また、サファリやラフティングは全く日本とはスケールが違うので、機会があれば再訪したい国である。

### 最後に

アジア、アラブ、アフリカと、3つの国を紹介したが、日本からの物理的な距離が遠い程、驚きは大きいと思う。特に、ウガンダに最初に降り立った時は、説明のできない雰囲気の違いを感じた。旅は、非日常を経験させてくれ、日常において普通と思われることの中に、実は普通でないものがあると気づかせてくれる。

また、余談ではあるが、97年のカンボジア訪問時に経由地のバンコクの空港で出会い、安宿街であるカオサンロードまでタクシーをシェアしたS氏とは、十数年の時を経て弁理士会館で再会する（S氏も弁理士である）。このような出会いも旅の醍醐味の一つであろう。

本稿を読まれた皆様の次の旅行先として、紹介した国々が候補になっていただけると幸いである。

## 県庁内弁理士という生き方

鈴木 俊 二 (稲門弁理士クラブ)

### 遅い夕食をとりながら

いつもお世話になっております。福島県商工労働部産業創出課主査で弁理士の鈴木俊二です。まずは少しだけ、現在の職場について紹介させていただきます。

公務員というと、定時に帰宅しているというイメージが強いかもしれませんが、少なくとも福島県庁は違います。

特に、私の部署では、医療機器関連産業と、そして何よりも脱原発を目指す我々にとって非常に重要な、再生可能エネルギー産業とを、復興を担う二本柱に掲げて、それを下支えする地元企業の皆様のお力になるべく業務にあたらせていただいております。日を跨ぐこともしばしばです。

実際この原稿も、翌週月曜日に迫った技術開発補助金の審査会に向け、皆様からの提案書の評価書を書き上げた帰宅後、遅い夕食をとりながら丑三つ刻あたりに書いている状況です。仕事があるのはありがたいことですが、家族とご飯を食べられないのは、やはり困りものです。

### お客様からよく聞かれること

私の名刺には、「弁理士」と書かせていただいております。私のお客様には、技術職の方が多いので、弁理士という資格の認知度も高く、名刺交換をするに必ずと言っていいほど聞かれる質問が3つあります。

まずは、「弁理士として県に入られたのですか？」

いいえ、違います。東京で3年間SEとして働いた後、情報技術の専門官として平成12年に県庁に入り今に至ります。弁理士試験に合格したのはその11年後の平成23年です。

14年前、結婚を機に、生まれ育った東京を離れて福島で暮らそうと職探しを始めた際、なかなか希望に合う民間企業を見つけることができず、地方都市の疲弊した経済状態を実感し、何か打開策をと考え

続けてたどり着いたのが知的財産権でした。

地方の中小企業が、中央の大企業に対抗できる可能性が残された数少ない手段、それが、知的財産権だと私は思っています。一方で、地方の技術者の皆様の目が、なかなか研究開発成果の知的財産権としての活用に向いていないというのが本当のところですよ。

そんな中、「県庁に弁理士がいるらしい、会ってみると隣のあの工場でも特許を出願したと紹介された、うちでも技術開発をしている、一度特許事務所に相談してみよう。」そんな好循環を生み出して、県内企業の皆様の目を知的財産に向けていくお手伝いをするのが、自分の存在意義だと思っています。

### 合格をきっかけに人事異動

2つ目によくある質問は、「いずれは独立されるつもりですか？」です。

いいえ、しないです。元々私の大学での専攻は英語で、技術も法律も経営からもほど遠いところにいました。本気で弁理士を目指すことにした最大のきっかけは、県庁の大学院派遣研修事業に応募したところ合格し、平成18年から19年にかけて東北大学大学院の経済学研究科に派遣いただき、地方都市での産業の集積や、企業間の技術移転について研究している中で、中小企業が知的財産権を利用している事例を数多く目にする機会があったためです。

産業振興の仕事をやりたいとずっと思っていたのですが、その担当部門は商工労働部、私は別の部門の所属で、情報技術の専門官として採用されているという縛りがあるため、希望する部門への異動がかなう可能性は相当に低いものでした。

ただ、自分の能力ややる気が十分ではないから異動がかなわないのか、能力ややる気があっても異動がかなわないのか、この点だけは見極めなければならないと思い、その指標に選んだのが、弁理士試験

の合格でした。

震災直後の平成23年の試験に合格して、今の部署に異動したのが平成24年ですから、私の狙いは見事に的中した訳です。私のそんな淡い期待を、結果的にベストタイミングで受入れてくれた今の職場への恩にしばらく報いていこうと、日々決意を新たにしている次第です。

#### 40歳間近で初心に戻る。

もう一つ良く聞かれる質問が、「県庁でも明細書を書いたりするのですか？」です。

いいえ、書きません。もっと言うと、中間処理も審判請求も訴訟対応を経験する機会もありません。そういった観点からも、やはり職場を変えることは難しいと思っています。

ただ、このように質問していただければ、否定する機会を与えていただけるのでよいのですが、いわゆる弁理士業もしているという前提で話しかけてくださるお客様には、期待を裏切らないようにその場を何とか切り抜け、家に帰ってから隠れて復習をしている状況です。

思い出されるのが、県庁に入った頃のことです。いきなり大規模システムの設計を任せられ、毎日のように名だたる大手ITメーカーさんからの仕様確認のご連絡をいただき、しかも即答が求められる。ほんの3年SEを経験した私には、毎日が試練でした。やはりあの頃も、家に帰って猛勉強でしたね。

40歳間近でこのような形で初心にできたことを一つのチャンスと思い、これからさらに地元の企業様のお役に立てるよう、がんばっていきたいと思います。

#### 国際化が進む福島の再生可能エネルギー

そして何より、今年最大のミッションは福島県再生可能エネルギー産業の国際化です。SE時代は海外部門を担当し、お客様はほとんど外国人だったのですが、県庁に入ってから英語を使うこともなく長らく過ごしてきました。

ところが昨年8月に知事がヨーロッパ訪問に訪れたのを機に、状況が一変。昨年10月にデンマークの気候・エネルギー・建設大臣を筆頭とするミッション団が来県されたのを皮切りに、2月に一度は外国要人がエネルギー分野での協力関係構築のために福

島にこられるとのことで、所属では英語が話せる方の私を担当に抜擢いただきました。

今年は、風力発電、藻バイオマス、水素利用で進んでいるデンマークの視察や、ドイツで開催されるヨーロッパ最大級のエネルギー産業の見本市”E-world energy & water”へも派遣いただく予定です。

また、昨年から開催し、今年も郡山市のビッグパレットふくしまで11月6日～7日にかけて開催される、再生可能エネルギー産業フェア (REIF) 福島には、ドイツ、デンマークをはじめとする数多くの海外企業、大使館、研究機関にご出展いただけることになり、まさに福島県の再生可能エネルギー産業が国際化しているということを実感しています。近くにお立ち寄り際には、ぜひ足をお運びください。

福島県内企業には、再生可能エネルギー産業にも活用できる、高度なものづくり技術がたくさんあると、私は信じています。そういった技術力と、海外の一步進んだ再エネ製品とが組み合わせることで、再生可能エネルギー産業が、福島県に深く根付いていくのだと思います。

#### 福島県発の技術を世界標準に

福島県に再生可能エネルギー産業を根付かせよう、その一心で仕事をしています。そのための、県や国をあげての事業がすでに始まっています。

まずは浮体式洋上風力発電所の実証事業です。その名のとおりに、太平洋上に浮かんだ状態の風車が電力を生み出し、海底ケーブルを伝って陸上に送り届ける。最終的には羽1枚が100メートルを超える世界最大の風車が福島の海に浮かび、改善を繰り返しながらその実用化の可能性を探ります。

もう一つの目玉は、産業技術総合研究所の福島拠点の開設です。そこでのメインの研究テーマは、もちろん太陽光、風力をはじめとする再生可能エネルギー関連技術です。

福島県発の技術が、世界標準になり、それを下支えしているのは県内中小企業で、その技術は知的財産権でしっかり保護されている。そんな未来を思い描きつつ、忙しいながらも毎日ワクワクできる県内弁理士という生き方に、少しでも魅力を感じていただけたでしょうか？

# 弁理士試験合格後体験記

梅 澤 崇 (稲門弁理士クラブ)

2012年に弁理士試験に合格し、2013年4月に弁理士登録したばかりなので、近況といっても弁理士登録前後のことになってしまうのですが、そういえばこんな感じだったなとか、今はこんな風なのかと思っただけであれば幸いです。

## 合格から登録まで

合格発表があると開放感もあるのですが、あまりのんびりもしてられません。1つは実務修習制度があるので、11月下旬には申し込み完了してなければなりません。書類が届くのが11月半ばになるので、費用の手配と書類の提出にばたきました。要するにお金を職場で出してもらおうかどうかです。うちの職場ではすんなり出してもらえましたが、やはり修習費用は高額なので、実務修習費用が発生することについて事前に認識を持ってもらう必要があるかもしれません。申し込むとすぐ修習の資料が届いて12月半ばには1回目の起案提出です。自分は特許法は免除だったのですが、そうでないと1週ごとに次の起案の期限が来ます。そして年末はe-learningをまとめてこなさなければなりません。年明けは集合研修があって、起案の再提出があると翌週までに提出しなければならないのでなかなか気が抜けません。再提出の有無は集合研修の集合時点で分かるので、再提出がないとのんびり研修に出られます。再提出となるとどこを直さないといけないか、そこに注意して聞かないといけないので気持ちの持ち方が違ってきます。結構再提出は発生しています。

そして全部終わると無事修了ですが、弁理士登録のための書類手配が意外と面倒でした。書類の再提出が発生したりして、そこで気をもんだりしたので、4月に登録になってようやく一息つけたという感じです。私は受付初日に弁理士会に並びました。持参だと再提出の指摘がその場であるのでその後の手配

がすぐにできます。その場合、職場から虎ノ門まで近くなければ、往復に時間もかかるし、帰りでも受付が終わるのが早いので、朝が一番都合が良いです。弁理士会には待合用の席が用意されているのでそこで並んでいる人同士で和気藹々と話しているうちに順番が来ました。その後の話題にもなったりするので、今後の合格者には初日に並ぶのを勧めます。

## 祝賀会と飲み会

もう1つは祝賀会関連です。ただ飲み食いするだけなのだからあわてることもないのですが、合格者が多いのに対して会派の側もみんな受け入れるわけにいかないので、情報の収集とできるだけ早くの申し込みが必要になります。祝賀会もたくさん出ると同じようにたくさん出る人と頻りに会うようになるので、知り合いが増えます。なのでどういう集まりがあるのか情報を集めるとともに、できるだけ早く行動する必要があります。

会派の合格祝賀会は大体11月に集まっているのですが、有志の飲み会が12月に始まり、年をあけてから本格的に増えてきます。年末年始は修習の課題が忙しいので、それが終わって集合研修が始まりだしてから毎週のように飲み会になります。実務修習最終日の飲み会が一番人数が集まって、確か150人くらいになりました。

弁理士登録されると一安心するのですが、飲み会続きの日々は続きます。今まで行けなかった飲み会も行けるようになる、というか率先して行きましたが、会派の研修に行ってその後の懇親会も参加しました。会派の研修後の懇親会にまで行く人はあんまり多くないですが、私はできるだけ行くようにしてました。新しい合格者は優遇扱いなので、その特典を存分に活用しました。

合格時期と登録時期が離れているので、登録祝賀

会も開かれています。5月から登録祝賀会がいくつかの会派で開催されました。この時期になると合格直後の押し寄せるような感じがなくなるので、申し込みをすれば大体どこも行けます。ということで私は全部参加しました。全部参加する人はさすがに珍しいとみんなに言われます。ただ登録祝賀会は合格祝賀会以上に会派の勧誘という色合いが強まるので、どこに入るのが良いかというのもこの辺の時期から考えたほうが良いかもしれません。私は上述のように片っ端からいろんなところに出て回っていたので、その分勧誘もされました。その割にはこの記事を書いている8月現在、あまり会派に加入している人が多くないような気がします。

### 情報発信など

飲み会とつくものは大体参加したので、交換した名刺は300枚を超えました。だんだん顔と名前が一致できなくなってくるので、名刺ホルダに名刺を入れるときにメモと日付を入れています。名刺管理ソフトを使っている人も時々見かけます。職場の名刺を配りまくとすぐになくなってしまっただけで何に使っているのか、と言うことになってしまうので、職場とは別の名刺を別途作りました。100枚1500円くらいから作れるのと、職場の連絡先ではなく自分のメールアドレス、電話番号など必要な情報をそこにに入れておけるので、連絡先交換としてはこちらの方を優先して配りました。両方用意しましたが、両方も結局なくなったというのが実情です。

また合格してからフェイスブックをはじめました。知り合っていた中でフェイスブックをやっている人には友達申請をなるべくだけしています。フェイスブックでの交流は同期に限らずいろんな時期の合格者の方としていますが、合格時期が後になるにつれてフェイスブックの交流は活発になっているように思います。また同期の数も多いことから、メーリングリストに登録してもらおうようにして、そこで一斉に情報発信がされています。登録者は400人くらいです。12-2月の同期会をきっかけに集まるようになりました。

### 弁理士登録後の目標

合格後、登録して交流関係を一巡したところで次は何をするか、ということですが、まず付記試験のことを考える人が多いです。ただ、去年合格今年登録の人は、付記試験を今年受けることはできません。やはり一応は目標をもって試験に受かってきたので、次の目標ということになります。概ね英語か体を鍛える方向に行くようです。同期合格者を見回してみると、TOEICで900点以上を取っている人を時々見かけ、中には満点を取っている人もいます。やはりこの仕事をやっていく上で必要と言う認識を持っている人が多く、スクールに通ったり独自に勉強したりしているようです。私もTOEIC試験を今年受けたりしています。

あとは体を鍛える、という点でジョギングです。みんなで集まってどこかに走りに行ったり、あとは独自に黙々と走ったりばらばらです。自分は自分のペースで黙々と走る派です。私は7月まで2ヶ月ほど頑張ってみましたが、暑くなったので中断してしまいました。この記事が出るころには涼しくなっているはずなので、再開して無事続けていたいと思います。

### 転職関係

最後に転職関係について、私は特許事務所勤務で、全般的に特許に関連する職を持ちながら勉強している人が多いので、そんなに言うほど転職する人は多くはないのではないかと考えていましたが、合格後や登録の後に転職する人は今も多いようです。親しい同期合格者も多く転職しています。この場合、実務修習費用や登録費用はどうなるのかと思いましたが、実務修習費用は自分で出して、その後転職して転職先で登録費用を出してもらおうケースが多いように思います。転職は1-3月がピークのようなのですが、転職活動は合格直後からしているようです。実務修習終了後すぐ登録してすぐ独立した同期合格者もいますが、全般的に独立志向の人は多くないような気がします。転職先も大手事務所を志望する人が多いです。

以上、合格から現在までの状況をまとめてみました。

# サマーアドベンチャー

日比谷 洋 平 (稲門弁理士クラブ)

## 【はじめに】

2013年の夏は、非常に暑い夏でした。これだけ暑いと涼しいところに行きたくなるもので、今年も妻と2人の子供と共に7月下旬、北海道へ向かいました。東京の小学生が夏休みに入った時期は、まだ北海道の小学生は夏休みではないので、観光地はそれほど混んでいません。北海道の小学生は、夏休みが短い代りに冬休みが長いそうです。

今年で3年連続で夏の北海道を訪れていますが、北海道で自然を体験するアクティビティ、特に水のアクティビティに参加することが目的です。昨年の2012年は小樽からシーカヤックに乗って青の洞窟を目指し、一昨年の2011年と2013年の今年も、ニセコの尻別川でラフティングを楽しみました。

いずれの年も千歳空港でレンタカーを借り、積丹半島、ニセコ周辺を回りました。アクティビティ以外にも、観光やグルメも楽しんではいりますが、何回も北海道に行きたくなる動機は、やはり大自然の中で遊ぶことにあります。

## 【ラフティング体験】

2013年はラフティングに参加しました。ラフティングというのは、10人乗り程度のゴムボートに各自、パドルを持ち、インストラクターと共に川を下るスポーツです。激流の中を下るようなイメージがありますが、今回は幼稚園児の娘も参加することもあり、緩やかなエリアを下るファミリーラフティングに参加しました。

ニセコは千歳空港から西に約100kmの場所であり、冬のスキーが有名なところです。夏には、複数のツアー会社からラフティングやカヌー等の様々のアクティビティが企画されており、いろいろと楽しむことができます。

7月下旬は北海道といえども十分に暑く、札幌、千歳より気温が低いニセコ、積丹半島方面でも太陽の下では汗が出てきました。しかし、異常に暑かった東京の猛暑に比べれば、爽やかな暑さであり、日陰に入れば汗は引きます。天気に恵まれて、快晴の中、羊蹄山麓の尻別川でラフティングを楽しみました。

ラフティングで下る尻別川は、透明度は日本有数であり、7月でも雪が残っている羊蹄山の雪解け水で、水温は18度程度です。そのため、手足を川につけているとすぐに冷たくなってしまいます。尻別川は羊蹄山の周りをぐるりと回り、ニセコ連峰の麓を通って日本海へと向かっています。



この尻別川にボートを浮かべ、今年も2家族とインストラクターとで川を下りました。川の周辺には、私たち以外に人の気配が全くなく、大自然を満喫しました。爽やかな風の中でのんびりと川を下るのは、非常に爽快です。ファミリーラフティングは激流を下るようなスリリングがない反面、川の周辺や水中を十分に観察することができます。川の周辺には木々が鬱蒼と生い茂り、東京では聞くことのない蝦夷ゼミが鳴いています。また、川の水は澄んでいて、川底の岩や藻がよく見えます。川にはイトウ等が生息しているらしいのですが、流れが速いためか泳ぐ

魚を見つけることはできません。川は50cm程度の浅い流れのところから、2m以上の深い流れのところまであり、パドルを水中に突っ込むことで深さを確認することができます。ときたま、川を横切る野鳥に驚かされます。



この短い時間のラフティングを通して、小学校の息子と幼稚園年長の娘が成長したことに気がきました。60分程度の川下りですが、2人とも最初はボートにしがみついている状態でしたが、最後には足が届かない川に入ってボートと一緒に流れを楽しむことができるようになっていました。



途中で、冷たい川に飛び込むわけですが、ドライスーツのおかげで冷た過ぎることはありません。ドライスーツというのは、外観はウェットスーツと似ているのですがスーツ内に水が触れることがない構造となっています。そのため、皮膚に直接、川の冷水が触れるないので、体温が奪われ難くなります。

直射日光の下、パドルを漕いでいるとドライスーツ内は汗びしょりとなっていますが、この状態で川に飛び込むと非常に良い気持ちです。十分に

深い場所で飛び込むのですが、ドライスーツの上に着用するライフジャケットによって、泳げなくとも上を向いていれば溺れることはありません。5分程、ボートの近くで流されると体が冷えてくるので、ボートに残っている人に引き上げてもらいます。息子も娘も川に飛び込み、引き上げられることを何回か繰り返しました。そのうち顔を水に浸けることのできなかつた娘は、抵抗なく浸けられるようになり、東京に帰るとシュノーケリングもできるようになっていました。

### 【シーカヤックで青の洞窟探検】

2012年の夏は、千歳から北西に約100kmの場所にある小樽の塩谷海岸から2人乗りのシーカヤックに乗り、青の洞窟を目指しました。最初に海岸でシーカヤックの操作やパドルの漕ぎ方を練習してから、青の洞窟へ向かいます。



2人乗りのシーカヤックに乗って、海岸から30分以上ひたすらパドルを漕ぎ続けると青の洞窟に到着します。行きは潮の流れが逆だったので、非常に疲れましたが、その分だけ帰りは楽になりました。洞窟の入り口は緑がかかった青のエメラルドグリーンで、何とも言えない色で水面が光っています。幻想的であり、水面をパドルで叩くと反射により、一層光って見えます。

なぜ条件が揃った洞窟だけが海面がエメラルドグリーンに光って見えるのでしょうか。水中に太陽光が入ると赤色が吸収され、青色の光だけが吸収されずに進みます。そして、海底が白い岩石等で反射し易いと、反射した青色の大気中に戻ってきます。こ



の光がエメラルドグリーンに見えます。よって、海底が光を反射し易い状況であることが青の洞窟の条件のようです。周りが薄暗い洞窟内では、光源が水中の反射波だけとなるので、エメラルドグリーンが際だって見えます。有名なイタリアカプリ島の青の洞窟もこの原理だと思えます。

この青の洞窟へのツアーでは、息子と娘はインストラクタと共にカヤックに乗り、網でヒトデやウニを取ったりしていました。シーカヤックで海原を進むので子供にとっては怖いかと思っていたのですが、直ぐに慣れて海中の観察を始めていました。このツアーはラフティングに比べ、自分の力で進むため疲れますが、その疲れも青の洞窟に着くと忘れてしま

います。塩谷海岸近辺の海の透明度すばらしく海底にはウニやヒトデがたくさんいるのが確認できます。洞窟近くの岩場には海鳥の巣なども見ることができます。

#### 【シュノーケリング】

2012年には、積丹半島の岩場でシュノーケリングにも挑戦しました。水温は冷たく長くは入っていることはできません。積丹半島の海は、短い期間しか海に入ることができませんが、海中は非常に澄んでおり、多数の魚やカニ、ウニを見ることができます。沖合の海は深い青をしており、積丹半島ブルーと呼ばれています。

#### 【終わりに】

このように、ここ数年、ニセコ、積丹半島周辺に訪れています。ニセコにスキーで訪れたことがある人は多いと思いますが、是非夏の北海道、特にニセコを訪れてみて下さい。いろいろなアクティビティがありますので、チャレンジしてみても如何でしょうか。

# ストレート

上田 侑士 (南甲弁理士クラブ)

## 本物のストレート

江川卓、小松辰雄、河原純一、上原浩治、藤川球児、中里篤史。彼らの右腕から解き放たれた白球は、唸りをあげてミットに吸い込まれ、もしキャッチャーがいなかったら、そのままバックネットに突き刺さるのではないかと思わせるような、そのようなボールである。まさしく、彼らは本物のストレートを投げるピッチャーである。決して変化球を中心にして打者を料理するピッチングを否定するわけではないが、あのミットを突き上げるようなボールは、人を魅了する不思議な力があり、見ている者の心を躍らせる。

彼らが投げるような本物のストレートがどのようなものなのか、どうして本物のストレートが生まれるのか、という点について論じていきたいと思う。

## スピードの速さなのか？

ところで、現代の野球ではスピードガンが普及し、投手の価値を「球速」というものさしで図ることができるようになった。「150キロ越えの速球派右腕」などという紹介の仕方を良く耳にするとと思う。一般的には140キロ台であれば普通の投手、150キロ前半であれば速球派、150キロ後半～160キロ超であれば剛速球派といったところであろうか。各投手の比較を容易にして、野球の魅力や楽しみ方を増やしたという意味では、スピードガンがもたらした効果は非常に大きいと思う。

ただし、スピードガンの数値を額面通りに受け取ってはいけない。すなわち球速が出るピッチャーが、本物のストレートを投げることができるのかというと、そうではない。現実的に、テレビ中継を見ていると、150キロという球速表示に対して「え!? こんなに出てるの!？」と思わされるような場面や、

あっさりと打たれてしまう場面を良く見かける。これは、主に初速が速く終速が遅いことを原因とするのであろうが、球速が本物のストレートを決定付ける主たる要素ではないことを証明すると言える。すなわち、本物のストレートであるか否かを決定付ける要素は球速とは別の次元に存在すると思われるべきであって、スピードガンで計測された数値はあくまで見ている人に対する演出程度に捉える必要がある。

## 回転数の多さなのか？

ストレートの良し悪しを算出するための数値としては、球速の他に代表的なものとして回転数がある。回転数が多いと球が受ける浮力も大きくなるため、回転数の多さが伸びのある直球に繋がると言われている。すなわち、回転数が多いボールは、ミットに吸い込まれていくような、バットに当てることもできずにボールの下を振ってしまうような、そんなボールになると言われている。では、回転数が多ければ必ず本物のストレートとなるのか？ 私はそうは思わない。回転数は多いに越したことはないだろうし、回転数の多さが球の伸びにつながる事は間違いないものの、それほど回転数が多くなくともやたらに伸びるように感じる球を投げる人を良く見てきた。18.44mという距離を150キロ近い速度で移動する球が、得る浮力の程度はたかが知れているというのが私の感覚である。理論的には、回転数の違いでボール1個分ほど高さが変わってくるそうであるが、回転数と体感する伸びとの関係は、科学されているほど大きいようには思えない。

## 科学的に算出した数値に基づいて判断できるのか？

そもそも、ストレートが本物であるか否かを科学的に判断することは可能なのであろうか。私は科学

的に判断することはできないと考えている。当然に現在言われている球質（球速や回転数）に関する科学的な数値も少なからず影響はあるであろうが、ごくわずかであろう。実際はストレートの質には非科学的なものが大きく働いているように思える。すなわち、数値化ができないようなものが大きく影響していると考えている。ではなぜ非科学的な部分が大きいと言えるのかというと、1つの分かり易い証拠がある。

その証拠を説明する前に、皆様はナックルボーラーをご存じであろうか？ナックルボーラーとは、無回転のボールを主として投げるタイプの投手であり、日本ではほとんど見る事ができない投手であるが、メジャーリーグでは、ウェイクフィールドや、ディッキーなどが活躍している。彼らが投げる無回転のボールは、揺れる。それもただ左右上下に揺れるだけではなく、前後にも揺れる。いうなれば究極の3次元ボールである。この揺れるボールは、キャッチャーも取れないほどのボールであり、バッターもなかなか打てないという魔法のようなボールである（もちろん欠点はあるが、ここでは触れない）。このような揺れが生じる理由は科学的に解明されており、具体的には、回転数が0となっている球は縫い目に応じて生じる気流に基づいて不規則に揺れるとされている。ただし、実際はそれだけが理由ではないように思える。なぜならば、ナックルボーラーが投げる無回転のボールが大きく揺れるのにもかかわらず、ナックルボーラーではない人間が投げた無回転のボールが全く揺れないという事実があるからである（完全に無回転になっていないからという理由かもしれないが。）。すなわち、科学的には、回転数が0となっている球は縫い目に応じて生じる気流に基づいて揺れるとされているが、実際には、その事象が生じるのはナックルボーラーと言われる特別な人間のみなのである。

このことを考慮すると、球を投げるという動作自体に非科学的な要素が含まれていると考えるのが自然である。では、その非科学的な力とは一体どのような部分で生じている力であり、どのような力なのであろうか？

## リリース力

ここで、基本に立ち返り、投げるという動作を解析してみる。投げるという動作は、脚を上げて、腕を降ろして、上げた脚を踏み出ししながら肘を上げていきトップを作り、踏み出した脚に体重を乗せて上体を回転させながら腕を振るという動作になる。このような一連の動作は、個々人で多少の違いがあれ、ナックルボーラーであっても普通の投手であっても基本的には同じである。このことを考慮すると、投球動作において最も大きな違いが出る部分は、最終的なリリース部分になってくる。すなわち、ナックルボーラーは、無回転のボールに揺れるという特殊性能を加えるための特殊なリリースの感覚を持っているのである。

ナックルボーラーで証明できるように、投球動作においてリリースするときに加わる力、つまりリリース力というものは、解き放たれるボールに大きな影響を及ぼすことは間違いない。この影響というものは、速度や回転数などといったものとは全く異質のものであって、まるでボールに命を吹き込むような不思議な力となる。

ここでいうリリース力に近いものを上げるとすれば、ゴルフが例として挙がると思う。ゴルフをやっている人であればわかると思うが、ゴルフにおいてはスイングスピードの速さと飛距離は必ずしも一致しない。飛距離には、インパクトでボールに伝わる力と、ミート率などのインパクト具合が大きく作用する。すなわちインパクト力が大きく作用する。ここで話しているリリース力というものは、このインパクト力に近いものであって、野球においてはゴルフと異なり、道具を介してリリース（インパクト）をしない分、より直接的にリリース力が伝わるように思う。

そして、このリリース力は、ピッチャーとして長年やっていけばある程度は身についてくる。しかしながら、普通のストレートを本物のストレートとするために必要なリリース力は、ごく限られた人間しか身に付かない。それらを身に付けた投手は、例えば、冒頭に挙げた投手たちである。彼らが投げるようなリリース力は、リリースの瞬間にボールをピン

ポン玉に変え、本物のストレートを演出する。江川卓投手や、上原浩治投手や、藤川球児投手などの映像を見ていただきたい。彼らが投げる瞬間の映像からは、他の投手とは何かが違うリリースを見ることができであろう。指にボールがいつまでも引っ付いているようでありながら、離れた瞬間にボールがグイーンと搭載エンジンを噴射して駆け上がっていく。本当にボールが意思を持っているようである。藤川球児投手についてのwikipedia情報であるが、藤川球児投手は『リリース時にはボールを潰すような感覚で投げ、「ピンポン玉のように浮き上がれ」と意識する』という。彼らのようにピッチングを極めた限られた人間においては、このような想いがボールにも伝わるのであろう。

## 終わりに

自分の周りに野球経験者（特にピッチャー）がいる場合には、キャッチボールをしてみることをお勧めする。本物のストレートを投げられるほどのリリース力を備えていることはないであろうが、少なくともフワフワッとボールが空気の上に乗っているようなピッチャー独特の球筋を味わうことができるだろう。それは、ある程度の数を投げ続けてきた人間のみでプレゼントされるある程度のリリース力であって、速度や回転数とは全く異質であることを実感できると思う。

最後になるが、それらしく書いておきながら、リリース力の存在は、あくまで私の経験や感覚に基づいた仮定のものであることにはご了承願いたい。

# マツ次郎の夏2013

松田次郎 (南甲弁理士クラブ)

今年のお盆も終わりに差し掛かる頃、まだ夏季休暇を取っていない。さて今年はどうしたものか。まだ行ったことのない沖縄、九州方面か、軽井沢辺りでゆっくりと涼むのが良いか、などと考えあぐねていると、「タイに行かない？」と嫁が提案してきた。なるほど、東南アジアにはまだ行ったことがないし、向こうには友人も住んでいる（この友人は名古屋に出張中ということで結局会えなかった。何という行き違いだ！）。しかも意外とお手頃で、北海道へ行くよりも安いかもしれない。嫁と私は海外旅行が好きで、特に嫁の方はこのようなお手頃なツアーを見付けてくるのが得意なのである。実は二人の出会いは海外であったりする。余談はさておき旅行先はタイのバンコクで決定となった。

タイ王国は面積513,120km<sup>2</sup>、人口6,408万人（2011年）で、東にカンボジア、北にラオス、西にミャンマーがある。立憲君主制で現在の王様はラーマ9世。つまらない情報かもしれないが、原稿の文字数を稼ぐ常套手段である。

## Day 1

スワンナプーム国際空港に到着しツアーバスでバンコク市内に向かう。市内に近づくと高速道路上から見える眼下には所狭しと家屋が密集している。空地にはゴミが積み上げられていて少々汚い。そうかと思えば、近代的で奇体な高層ビルがぼつぼつと存在し威風を放っている。いよいよバンコクの街中に入ってきた。ピンクのタクシーや、バイク、三輪のトゥクトゥクなどがごった返し、あちこちでクラクションが鳴り響いている。また歩道には露店が並び、活気に満ち溢れている。バスの中でガイドが言っていた。「日本人は露店で食べない方が良く、食べると

病院送りになる。」と。どうやら食器を洗う水を使いまわしているところが多いらしい。ということで、旅行中は露店の食事には手を出すことは無かった。

街中には英国のサッカーチーム、マンチェスター・ユナイテッドの選手を起用したPEPSIの広告が多数見受けられた。ルーニー、ファンペルシー、もちろん我らが香川も起用されているが掲載頻度は少なかった。

ホテルに付いた後、町で軽く食事をして1回目のマッサージに行った（旅行中3回行った）。お店はその名も「有馬温泉」である。有馬温泉といえば今年の南甲の親睦旅行で訪れているが全く関係がない。評判通りのタイ古式マッサージを受け旅の疲れが癒された。1時間でいいと言っているのにマッサージ師のおばちゃんが「ニジカーン、ニジカーン」と連呼していた。時間が長い方がチップを多くもらえるからである。給料のほとんどをチップが占めているので必死なのであろう。その後ホテルで就寝。なぜか夜中に目が覚めて4回もトイレに行った。タイ古式マッサージには利尿作用もあるのだろうか。

## DAY 2

朝から電車に乗り、チャトゥチャックという駅にあるウィークエンドマーケットに向かった。バンコク市内を走るBTSという電車は頻繁に走っており、車内はクーラーがよく効いていて、暑い中歩いてきた乗客にとって天国のような場所である。ウィークエンドマーケットは世界中のバイヤーも訪れるタイ最大級のマーケットであり、洋服、雑貨、家具、民芸品等々が売られている。中でも目に付いたのは、おそらく許可を得ていないであろうコピー商品や、有名なキャラクターをパロディ化したTシャツなどである。全くけしからんことであるが、クスッと笑っ

てしまうものもある。

夜はチャオプラヤー川のディナークルーズへ。川の両岸に重要なお寺が集中しており、闇の中でライトアップされた寺院は一際輝きを放っていて神秘的なものを感じた。因みにこの川は、メナム川と呼ばれていたこともあるが、これは原地で「メーナム・チャオプラヤー」（「メナム」は川の意味）と呼んでいるのを、メナムが川の名前であると誤認したことによるものであり、適切な呼び方ではない。

我々の乗った船は静かで落ち着いた雰囲気であったが、クルーズの中には音楽をガンガンかけているものもあり、我々を追い越していく船からは「オッ、オッ、オッパ、カンナムスタイル！」と軽快な歌が聞こえ、船上ではアジアの人間だけでなく欧米の方もノリノリでクラブ状態であった。

### DAY 3

早朝に起床しアユタヤツアーに参加した。アユタヤは400年にわたってインドシナ半島の中心として栄えた歴史を持つ場所であるが、遺跡のほとんどがビルマに破壊されており、頭部のない仏像が沢山あった。壮大な仏塔が沢山ありかつての栄華を想像させるが、そうはいつでもそこは廃墟であり、それほど時間をかけて見るものもない。その後定番の象に乗ったが、象使いが「チップ、チップ」とうるさいのを適当にあしらっていたら、「あれ、結局景色見



たっけ？」という感じであつという間に終わってしまった。他に二か所ほど寺院を回ったが、タイはとにかく暑い！汗が止まらず服はビショビショである。ガイドが「もう一か所あるけど？」と言ったが、我々も他のツアー参加者もうんざりした顔をしたのでそこはカットされた。

夕方にマッサージ(2回目)で昼間の疲れをリセットし、タイ料理を食べに「Mango Tree」というレストランへ行く。レッドカーリー、ガッパオ、トムヤムクン、タイ料理にはおいしいものが沢山ある。私の中では中華が一位であるが、タイ料理は第4位くらいに位置する。

### DAY 4

やはりバンコクといえば寺院巡りである。水上バスに乗り込み、チャオプラヤー川を北上した。三島由紀夫の小説の舞台にもなった“暁の寺”「ワット・アルン」、そして医学や芸術といった学問の地として有名な「ワット・ポー」へ行ってみた。中でも見どころはワット・ポーにある巨大な涅槃仏(ねはんぶつ)である。涅槃仏とは釈迦が入滅する様子を仏像として表したものであるらしい。この仏像は全長49メートル、高さ12メートルで右ひじを立てて寝そべっている。薄目を開けて上から見下ろしてくる視線は、「君のことはすべてお見通しだよ。」と言われているような気分にさせる。



お昼は「Blue elephant」というタイ料理のお店へ行く。結構有名らしく、お店にはレーガン大統領や、

秋篠宮殿下下の写真などが飾ってあった。ここではパッポンカレーというものを食べたが、これがまた美味！ 渡り蟹のカレー炒めのことである、カニの風味とピリ辛のカレーが絶妙にマッチしていた。バンコクへ行くことがあれば是非お試しいただきたいと思う。

タイ旅行の締めくくりはやはりマッサージである。今回はオイルマッサージ付のコースをチョイスした。実はオイルマッサージは初体験であったが、大変気持ち良かった。うつぶせ状態ではパンツをペロン

と捲られてお尻が露わな状態になり、多少辱めを受けた。今回の旅では妻の誘いでタイ古式マッサージにトライしたのであるが、日本に帰っても癖になりそうなほど効果的であった。

これでタイ旅行の報告は終わりますが、ここまでお付き合いいただき誠に有難う御座いました。タイに行かれる際にはぜひご参考にして頂ければと思います。「コップンカップ！」。

## 私とタバコと意思の強さ

松田 治 躬 (南甲弁理士クラブ)

「今日も元気だタバコが旨い」・「タバコは動くアクセサリー」・「タバコは心の日曜日」等のキャッチフレーズに騙された訳でもないが、国によって中毒にされ、現在72歳、数えてみると50余年タバコを買い続けている。

3年前、2～3ヶ月ケン・ケンと咳が止まらず、周囲が「がん・肺炎」を心配し、娘が私の保険証で外来内科の初診受付を申し込み、待ち時間を見つるって、いやがる私を虎の門病院へ連行した。

内科の医者は、聴診器診断の結果、喉のICスキャンを撮る手配をし、部屋を移した途端に横に寝かされ撮影。もとの部屋に戻った時には、コンピュータ上で咽頭内の上部から肺まで上下して何度も見られる状態になっていた。

周囲が心配した肺がん、喉頭がん、肺炎の虞はなく、風邪の症状とのことであったが、医者が、画像を更に上下させて見ているうちに、小さな黒点が沢山あることに気づき、肺の気泡が死んでいく肺気腫の可能性を言いだした。

どの程度の症状か聞き出す私に、医者は、内科なので気管支科で肺活量を調べなければ、と明快な返事はなく、気管支科に紹介状を出してくれた。(同じ病院なのに何故「紹介状」がいるのか…。弁理士も依頼内容の専門家を紹介したら紹介料を請求できるのではないかと?)

肺活量の検査と聞いて、中学時代、水に浮かぶ20～30cmの半円筒形のカバーをゴム管で吹き、数cm回転させ計測したことがあることを思い出し、指定する日時等を記載した紙を受け取った。

肺活量検査の前日、渡されていた注意事項を見ると、午前中は「禁酒」と書かれていたが朝から酒を飲む習慣はない。しかし、次の欄に「24時間禁煙」が記載されていた。私は50余年禁煙を行ったことが

なく、1日2箱(40本)のミドルスモーカーである。

何も言わずに渡された紙に記載されていたのであり、検査前日は弁理士協同組合とNB保険の会合で、私が司会・懇親会の主催者となっていたため、酒は飲めるがタバコが吸えない状態は想定できなかった。会を早く切り上げて寝てしまえば、翌日の午後には吸える、と考え、なんとか我慢した。

翌日、肺活量の検査に行くと、1m四方の高さ2mぐらいの機械の横に座らせられ、機械から伸びた管の先に口を覆うカバー、更に、密閉するためテープを口の周囲に張り付ける重装備が準備されており、若い女性の看護師が横について「まだ、まだ、息が出ています。頑張っ～もっ。もっ～。」と掛け声で応援してくれるのである。

相当に疲れる。よし終わったと思った途端、「3分休憩してあと2回やります。」その3回で最良の数値を利用してくれるとのことである。

終わった！喫煙場所は！と思ったら、横のビニールで覆われた気圧席で同様に3回、そして、更に、もとの席に戻され、今度は空気を吸い込んで突然に吐く息の圧力を図る計測が休み休み数回、まだまだ終わらず、1回目同様だが機械から出されるガスを管で吸い込み、吐気する計測を3回。と延々2時間ほど検査され、想像以上のダメージを受け、隣のJTに駆け込み一服した。

数日後、気管支科の検査結果は、「肺気腫」と診断されたが程度は教えてくれず、「ゴルフは結構ですが、2年後にはガスボンベを引いて歩きますか」等、同行した娘と一緒に「禁煙」を強要するだけであり、若干、弱みを見せた途端、「当病院にも外来禁煙科が設置され、保険で禁煙ができます。」と勧められ、あっという間に40日後の紹介状付き「外来禁煙」を予約されてしまった。

この40日間流石に1日40本のタバコは吸えず、1本吸えば45分間ニコチンが体内に残り、チェーンは無意味との解説も読んだため、いつもとタバコの置き場所と変えただけで相当少なくでき、7～8本の日が続いた。途中4～5本まで下がり、止められるかとも考えたが、止めてしまったのでは「外来禁煙を申し込んだ意味がない。失礼だ。」と考え、喫煙を続けることにした。

40日が過ぎ、娘と「外来禁煙科」に行くと、若い美人の女医さんが待っていた。私の節煙状況を説明すると、機械から伸びた管のパイプを吸引・吐気して計測し、「6本と出ていますので頑張りましたね。」と褒めてくれた。

その直後「いつから始めますか」と聞かれた瞬間、「どの程度の人がいきましたか」と聞き返した。「1週間、2週間後の人もいました」。開始時を決めるとどの程度の期間で止めるかを更に相談し「パイプ・パッチ・ガム・注射」等を組合せ、担当医と協力して最終禁煙に至るようである。

「何時から」に対し「3ヶ月は」と聞くとそれでも良さそうであったが「6ヶ月」と聞いた時に、「それは初診でしょう。」と言われてしまった。

つまり、この保険医療は、本人が止める意思がなければ協力できず、当然、強制できるものではない。そこで「初診でまた来ます」で終わった。

半年後、ある事情で埃が立ち込める室内で、マスクもせず何時間も片づけごとを行い、また咳き込む状況に至り、行き付けの医者から「喘息」の診断を受けた。医者は「酒とタバコを止めなさい」とのたもうた。

私は「病は気から」。「多くの病気はストレスが原因では？」「私が酒とタバコを止めたらストレスが溜まります。現在の病気とどちらが長生きしますか？」と聞くと返事に窮していた。「私は意思強く吸い続けることにした。」

さて、タバコは現在でもJTを通じ国が税金を集めている国の財源である。その額は2兆5千億円近くで消費税の1%相当であり、喫煙人口が減ると値上げして維持している。消費税なら国民平等であるが、たばこ税は平均的に所得の少ない労働者層が多く、国が中毒の原因を作った不平等税である。

しかも、条例で罰金を取る区もあるが、これは利益追求の末に生じた公害と異なり、人間がニンニクを始め臭い息を大気中に吐き出す自由・天賦の人権を無視する憲法違反であると思っている。

喫煙人口が5割を超えていた当時は、喫茶店は必ずマッチと灰皿が配されており、各種飲食店・娯楽施設・駅のホームは当然、バス・タクシー・電車の車中でも灰皿が設置され、過度の煙害は道徳で律せられていた程度である。また、その副流煙吸引世代が長生きし現在の長寿社会を形成している。

禁煙運動は、少数の運動家が騒ぎだしたものであり、鉄道敷設や道路建設等でもマイナーな者が反対運動に火を着けている。喫煙者も喫煙可能世代の2割を割り込みマイナーとなった現在、座席もない狭い喫煙室に閉じ込められる差別性に対し、税収2兆5千億円の一部でも遣い、街角ごと、ホームごとに立派な喫煙応接室を設けてもよいと思われる。

理由はともかく、タバコを止めた者の方がギャーギャー騒ぐ、魔女狩り的な嫌がらせを受けているが、国が税収を諦め、中毒にした喫煙者一代限りに止めるよう、医者から処方を受けて買う制度でもよい。植物性由来なので温暖化とは関連ないし、バリアフリーまで言わないが、愛煙家を増やす喫煙運動ではないが、「喫煙権」運動程度なら旗までは振らないとしても署名したい。

弁理士会館も、会員の喫煙者の数を調べれば殆どの支部より大勢となるものと思われる。駐車場に灰皿を置くだけでなく、支部の援助費用より安価に、憩いのための応接付きの喫煙室を独立して設けてもよいのではないだろうか。（「喫煙紫煙センター」）

# 私とゴルフ (イップス病を乗り越えて)

柳 生 征 男 (南甲弁理士クラブ)

10年前に比べると自分では少しは上手くなっていると思っているが、上手な人から見れば「下手の横好き」にすぎないと映るのであろうか。原稿を依頼した先生から「なんでもかまいません」と言われたので、他人が読んでも何の足しにもならないと思いますが、私の「ゴルフ」人生についての記述です。

## 始まり

1971年(昭和46年)12月、元「湯浅・原法律特許事務所」に所属していた大場正成弁護士に1本のドライバーを頂戴し自宅近くの練習場に2,3回通って私のゴルフ人生が始まった。私は練習を始めて1月も経たないのに、他人にゴルフスイングを教えた程にゴルフの罫にはまっていた。その当時、青木功は既に実績を上げており、尾崎将司も華々しくデビューを飾り日本でゴルフブームが始まる頃であった。「発明の日記念ゴルフ大会」は丁度その年に、それまで同好の志で行われていた大会の名前を変えて第1回大会が開かれたと記憶する。

南甲弁理士クラブに所属の友人数名がほぼ同時期にゴルフを始め、滝野秀雄先生や故田代丞次先生、故佐野義男先生達から蘊蓄を伺いながら、年6回(その後年4回)のコンペで一喜一憂していた。また、事務所でも同好の士が集まって年に4回のコンペも始まり、徐々に腕も上がっていった。

## 成績

最近のコンペ賞品は、優勝の商品を含め殆どがデパートやクレジット会社が発行する商品券であるが、10年位前までは、トロフィーやカップであった。

自宅に保管してある優勝したことを物語るトロフィーやカップに基づいた南甲ゴルフコンペでの戦歴は、

1973年8月15日 習志野カントリークラブ  
1990年4月04日 横浜カントリークラブ  
1999年10月13日 武蔵丘カントリークラブ(南甲ではこれが最後の優勝)

## 挫折

私の手元にある、南甲弁理士クラブが毎年発行する「南甲」という機関紙に掲載の「ゴルフ部の成績」によれば、私は2001年頃までは、たまには1ラウンド「80」台前半のスコアーを記録していたことが記録されている。しかし、2011年迄の10年間位は、90台がたまに出ても、100台、110台のスコアーに甘んじていた状況であった。急激にスコアーが悪くなったのは、ゴルフをする人でもめったにかかるといけない、「イップス病」に陥ったことが原因である。その原因を作ったのは、スキーで人と衝突して肋骨にひびが入り、完治しないうちにゴルフコンペに参加し、肋骨の痛みをかばうスイングをしたことによるものと考えている。痛みのため十分なバックスイングができず、早打ちとなり、悪循環が始まった。ゴルフでイップス病といえば、通常は、今までスムーズにパッティングしていたゴルファーが、カップのはるか手前かカップをはるかオーバーするようなパッティングをする状況に陥った場合を示す。しかし、私の場合は、パター以外のドライバーを含め全てのクラブがまともに打てなくなるイップス病だった。テークバックする力と前に引っ張る力が拮抗して、十分にテークバックしていない状態から直ぐにダウンスイングに移行する状況が生じた。練習場でも同じ状況であった。一時期はドライバーでショットすることができなくなり、ティーショットも全てアイアンでショットせざるを得ない状況に陥った。パター以外の全てのクラブがまともに振れなくなり、

2011年迄の10年間位、事務所のコンペを除き、南甲ゴルフコンペその他のコンペには、恥ずかしくてできるだけ参加しないようにしていた。

### 克服

2011年の4月に南甲弁理士クラブのコンペが、桜ヶ丘CCで行われた際に、アウトの1番（グリーンに向かってかなり急傾斜の下り坂のコース）で「ドライバー」で打った私のティーショットがかなり飛んだ。その時に、佐藤彰芳先生が「柳生さん治ったね」というようなことを言ってくださったことを覚えている。まだ完全には治っていない時期だったが、治ってきているのかなと自信を持ち始めた。コースには出ないが、練習場にはイップス病を直すために、毎月4、5回は出かけていたと思う。しかし、どのようにしてイップス病を克服できたのかを具体的に説明することはできない。突然に治っていたと思う。

私は2004年に鎌ヶ谷CCのメンバーとなった。コンペにも積極的に参加するでもなし、またハンディキャップを取ることもなく、単に健康維持のためと思って年に数回ラウンドしていたが、古くからメンバーであった弁理士の黒川弘朗先生から2011年夏ごろに、「ハンディキャップを取得して競技に出ないと腕は上がらない」と言われ、110を超すスコアが出ようが諦めずに熱心に練習に励んだことが、ある日突然スムーズなスイングができることに繋がったと思う。その年の暮れに、ハンディキャップ「30」を取得し、1年半後の2013年6月に「22」となった。当面の目標ハンディは「20」である。若いころは「12」まで行ったが、「18」を目指すべく練習に余念がない。

### ドライバーとパター（プロとアマチュアの差）

ゴルフでは、「Driving is for show, putting is for dough (money)」という古くからの格言がある。プロゴルフ競技では、賞金獲得は「パッティングの巧拙」で決まり、ドライバーでいくら飛ばしても賞金獲得にはつながらないことを揶揄した表現である。しかし、ハンディキャップがシングルに達していない人は勿論のこと、達した人も含めて多くのアマチュアゴルファーは、ドライバーの飛距離にこだ

わり、自分の腕前は棚に上げて「飛距離が出る」と宣伝されるドライバーを求める。クラブの性能も近年一段と良くなり、アマチュア（弁理士の中）でもプロ並みに300ヤード前後の飛距離を出す人も出てきている。私も現在手元には6本のドライバーがあるが、中古で引き取ってもらったものを含めると10本はくだらないと思う。私が50歳前後の頃は220ヤード程度の飛距離は出ていたと記憶しているが、現在では、ドライバーの性能は良くなっているにも拘らず200ヤードを超えることはめったにない。しかし、ドライバーが豪快で完璧であっても、必ずしもパーディーが約束されているわけでもないし、パーだつて取れないことの方が多い。

プロは、パーディーやイーグルを取って、賞金を得るにはパッティングが一番大事であることを知っている。一流プロゴルファーの賞金獲得額の差は、概ねパッティングの巧拙にかかっている。プロは、パッティングの練習に相当の時間を費やし、パターの長さや形状を変えたり、パッティングの時の手の握り方をいろいろ変えたりする。プロが賞金獲得する「パッティング」という技術は、普通なら2パットのところを1パットにする技術レベルでの話である。5メートル前後のチャンスであれば勿論のこと、10メートル以上離れていても、一発で入れるという技術を、プロは磨いている。プロは、1日に何時間もパッティングの練習をして、それだけの自信も持っているからパーディーやイーグルを狙いに行く。アマチュアが、これを真似ると、入れようとすれば、強めのヒットになり、外れたときは1～2mオーバーとなりやすい。1～2mの距離からは、50%程度の確率でしか入らないから、3パットが増える。アマチュアは、殆どパッティングの練習もしないし、技術の裏付けも乏しいから、最初のパーディーパットが入る確率も低いし、返しの1～2mパットを入れる自信も乏しく、外す可能性は高い。だから、2パットで良いものを何とか1パットにしようと無闇に攻めて狙わないようにすることに心がけている。

### 鎌ヶ谷会

今年6月の月例会の時に同伴競技者から誘われて、所属している鎌ヶ谷CCにメンバーのみで構成された「鎌ヶ谷会」に加入した。毎月1回日曜日にコンペを開催している60名程度の会員が集まっている団体である。

猛暑の中、7月28日と8月18日のコンペに参加した。両方のコンペとも40名程度の参加者であったが、参加者の年齢が高い（80歳前後のメンバーが半数）のには大変驚いた。7月の私の同伴プレイヤーは昭和8年と昭和15年生まれで、8月の同伴プレイヤーは昭和9年と昭和10年生まれのお二人であった。昭和8年生まれの方を除き、いずれも200ヤードを超

す飛距離を出し、元気いっぱい(round)しておられた。8月のコンペでは6ホールを残した段階で、足がつって歩くことに支障が生じた。同伴のお二人から、「足がつるのは熱中症の症状」だと指摘されたので、残念ながらプレー続行を諦めざるを得なかった。

このように、鎌ヶ谷CCでは、元気な後期高齢者のメンバーと、南甲ゴルフコンペでは、元気で勢いのある若い弁理士及び私よりも若干若いながらも後期高齢者の仲間入りする熟練の弁理士と腕を競うべく練習に励んでおり、体が許す限り毎月2回程度はプレーを続けたい。



# 私と弓道

田 浦 弘 達 (P A会)

私は、趣味として弓道をしており、目黒の公立体育館にある道場に通っています。

私が弓道を始めたのは、高校生のときです。高校に入学し、何か部活を始めたいと考えた時に、弓を引いている姿がかっこよく、また両親も経験者であったことから、興味を持ち入部して始めました。高校では部活を引退するまでの約2年数ヶ月間弓道をし、その後は弓道することなく10年程度のブランクがありました。そして、29歳のとき弁理士試験が終了したのをきっかけに何か始めたいと考えた際、高校で中途半端に終わらせていた弓道を改めてやりたいと思い、公立体育館にある道場で再開し、それから2年半程稽古に励んでいます。

## 弓道の面白さ

私は、弓道は、非常に面白い競技だと思っています。その理由の一つとして、弓を引いて矢を離れた時の感触が挙げられます。矢を離れた時の衝撃が体をズバツと瞬間的に貫いていく感触がとても気持ちよく、上手く引けたときには特にその感触が良くなり、さらに、矢が的に中ればその中った音がさらに楽しさを増幅させます。

弓道が面白いもう一つの理由としましては、弓道は、一見、単純な競技に見えますが、実際は単純とは程遠く、極めて奥深い競技であることです。的の前に立ってから矢を射るまでの間に、全身の様々な筋肉を、それぞれ順序良く力まずに適切に働かせながら、細かい一つ一つの動作によって、射形を徐々に形成させていく必要があります。矢を射る射形は、一つ一つの細かい動作を積み重ねながら総集結させて完成させるので、途中の動作が矢を放つまで影響します。このような点を考えつつ、理想的な射を目指して練習し、そして、時折上手く射を行えた時の

達成感が弓道を楽しくしていると思っています。

## 悪癖

ところで、弓道では、ちょっとした体の使い方のミスが、その射の結果に大きな影響を与えます。そして、そのミスを修正することに注意を払わなければ、それが体に染み付いて癖になり修正するのに大変な労力が必要になります。

私は、弓道における三大悪癖の一つと言われる「早気（はやげ）」に昔から悩まされており、その修正に日々悪戦苦闘しています。早気とは、弓を射るための動作のうち、弓を引き分けた状態で体の詰合い、伸合いをする最も重要な動作である「会」が、全く続かない癖を言います。私の場合、「会」をしようと考へても、弓を引き分けて矢を最も引いた状態になると、条件反射的に矢を離してしまい、または、離さないようにしても耐えられずに離してしまいます。

早気が悪い癖である理由は、弓を引き分けた後すぐに矢を離してしまいますので、安定した射が得られず、また、的に中りにくいということがあります。そして、何より、「会」をしないと矢に十分な力が伝わらなく、美しい射になりません。

早気になる原因は、弓道を始めてある程度経つと、満足できる射形でなく、「会」の動作を十分にしなくても、そこそこの的に中るようになるので、射形よりも的に中てたい気持ちが先行し、「会」の動作を怠るようになるためです。従って、早気の原因は、動作が疎かになるだけでなく、「会」がなくても中るといふ気の緩みからくる精神的な面にもあります。これが直すのに厄介な癖と言われる理由です。

現在通っている道場では、早気を直すべく、先生から様々指導を受けています。例えば、矢を離さない（矢を発射させないで持ったままで維持する）よ

うにしたり、「会」の状態で行うべき動作をイメージするようにしたり、など様々試しました。しかし、毎回、一時的にだけ直るものの、すぐ元に戻って早気になってしまうのが現状です。

このように毎回の練習で試行錯誤していますが、最初の頃は、「ただ矢を離さないようにすればいい」と簡単に考えていました。しかし、なかなか克服できないので、最近、私の早気の原因は、もっと奥深いところにあるのではないかと考えています。私が普段何気なくしている弓を引くまでの様々な動作の中に、誤った動作があり、そのために、一時的に早気が直ってもまた元の状態に戻るような、早気になりやすい射形をしているのではないかと、射法八節(弓道における、弓を射るための動作を八つに分けて説明した法則)に反する動作をしているのではないかと考えています。また、精神的な面で言えば、長くこの癖に悩んでいることから、弓を引く過程で少しでも射形がイメージと異なると、最後まで踏ん張る前に諦めてしまうことがあります。従って、最初から最後まですべき動作ができていないか、一つ一つ確認して直しつつ、射形が悪くても何とかしようという気持ちを持つことも必要であると痛感しています。

## 最後に

ところで、弓道には、「射即人生」という、「弓を引く経験からいろいろな教えを得て人生を豊かにする」という意味の言葉があります。上述のように練習では、いつも多くの苦勞をしており、長くこの悪癖に悩まされているので、「早気はもう直らないのではないかと。弓道なんて辞めてしまいたい。」と感ずることがあります。早気が直ってもすぐに元の状態に戻ると、「またか」を思い、心が折れそうになります。それにもかかわらず続けたいと思うのは、時折成功した時の楽しさや充実感が得られるからということもありますが、弓道の修練を通じて様々な良い経験もすることもできているからです。道場には、老若男女、様々なバックグラウンドを持った方々が通っており、道場が良いコミュニティとなっております。そして、そこにいる一人ひとりが、先生から指導を受けながら各自の目標に向かって練習をしております。そのような道場に行けば、仕事を含めて普段の生活でも頑張らなければと、心が正されます。また、道場の方々とは、道場内だけでなく道場外でも懇意にさせていただいており、普段の生活の話、仕事上の話をしたりし、弓道以外でも良い関係になっています。このように、弓を引く経験を通じて、日常生活を充実したものにしてくれる弓道を、今後もずっと続けて行きたいと思っています。





## 続！ このコミック&ラノベが面白い！

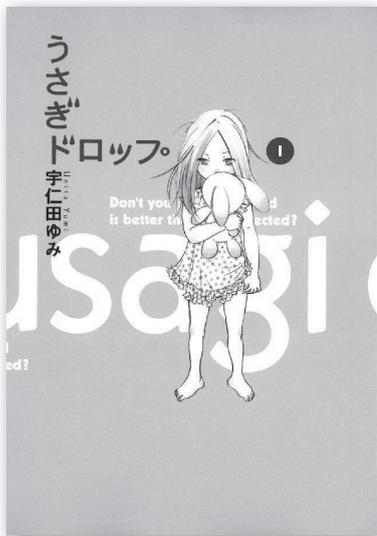
野田 薫 央 (PA会)

### 1. はじめに

オタク弁理士の野田です。2011年の会報「日弁」でも「このコミック&ラノベが面白い！」と題して私が好きな4作品「3月のライオン」「バクマン。」「化物語」「涼宮ハルヒの憂鬱」を紹介しましたが、

残念ながら無反響でした（涙）。でもめげずに今回も好きな作品をご紹介しますと思います。コミックやライトノベルといった日本が誇るクールジャパンコンテンツに少しでも興味を持っていただければ幸いです。

### 2. コミック編



©宇仁田ゆみ／祥伝社

題名	うさぎドロップ
著者	宇仁田 ゆみ
巻数	全 10 巻

30歳の独身男性のダイキチが、祖父の葬儀で出会った祖父の隠し子りん（6歳の女の子）を引き取ることになり、2人で成長していく物語。育児の苦勞と楽しさが満ち溢れ、「親子」というあたりまえで特別な関係を再確認できる。とにかくりんが可愛い！ りんのために頑張るダイキチと健気に生きるりんを心から応援したくなる。私は娘がいないので、成長していくりんを見守りながら、プチ「娘の父親」気分を味わっている。2011年にテレビアニメ及び実写映画化。



©高橋慶太郎／小学館

題名	ヨルムンガンド
著者	高橋 慶太郎
巻数	全 11 巻

「世界平和のために武器を売る」と豪語する若き女性武器商人ココと、彼女の私兵で武器を憎む少年兵ヨナを中心に描くガンアクション作品。敵を排除しながら世界中で武器を売る旅の果てに、徐々に姿を現す謎のヨルムンガンド計画。合衆国を始めとする各国情報部や軍隊を巻き込みながら、世界の変革が進んでいく…。登場人物が揃いも揃ってひと癖もふた癖もあり実に魅力的。第一話から様々な伏線が張られ、最後の最後まで一気に読める。2012年にテレビアニメ化。

### 3. ライトノベル編



©森岡浩之／早川書房

題名	星界の紋章（星界シリーズ第1巻）
著者	森岡 浩之
巻数	既刊 8 巻

宇宙戦争を背景とした冒険活劇。少年ジントは、思いがけず「アーヴ（遺伝子改造された新人類）による人類帝国」の貴族になる。そして、皇帝の孫娘ラフィールと出会い、この宇宙の大きな歴史の渦に巻き込まれていく。本作品内には読者を唸らせる中二病的設定がてんこ盛り。例えば、我々の宇宙と別次元の「平面宇宙」の存在や平面宇宙における本作特有の宇宙戦闘、我々と異なる宇宙観を持つ「アーヴ」の存在など。宇宙を二分する大きな戦争と、その片隅で繰り広げられる冒険活劇のバランスも良く、読み始めると止まらない。今年(2013年)、最新刊「星界の戦旗V」が9年ぶりに発刊され、個人的に大いに喜んだ。1999年にテレビアニメ化。

#### 4. まとめ

今回ご紹介した4作品は全て個人的に好きな作品なので、この原稿を書いているうちに改めて全部読み返したくなってきました。人によって好きな作品はいろいろだと思いますが、コミックやライトノベルといったジャンルについても読書の候補に入れて



©橋本 紡／アスキー・メディアワークス イラスト：山本ケイジ

題名	半分の月がのぼる空
著者	橋本 紡
巻数	全 8 巻

不治の病に侵され、小さい頃からずっと病院で暮らしているわがままな美少女 里香と、里香に翻弄されながら彼女に好意を持つ高校生 裕一との恋物語。ラノベでは珍しい正統派の青春・恋愛小説。ありふれた日常描写の中で、ひたひたと忍び寄って来る里香の死の気配。本当は私たちも事故などでいつ死ぬか分からないが、この作品の2人を通して、「生きる」ことや「命」と少しだけ向き合うことになる。

2006年にテレビアニメとテレビドラマ化、2010年に実写映画化。

いただければ幸いです。読んだ人がいたら是非語り合いましょう。

なお、今回各出版社に作品の表紙画像の使用許諾をお願いしたところ、快諾していただきました。感謝申し上げます。

以上

## ハルキストの巡礼の話

田村拓也 (P A会)

### ハルキストの巡礼

靴紐を結んで立ち上がる。サングラスのブリッジを奥に押す。2013年8月、ぼくは巡礼に出た。

巡礼といっても、『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』とは違い、クロに会いにフィンランドに行くのではない。アオやアカのいる名古屋へさえも行かない。多崎つくると同じく色彩をもたないぼくは、ふとしたきっかけから村上作品で描かれている都内のスポットを巡ることにした。

### 作品の舞台としての東京

村上作品は、その多くが東京を舞台としている。『ノルウェーの森』で主人公ワタナベは、早稲田や新宿、大塚、国分寺で直子や緑と過ごす（ここでは阿美寮（京都）は考慮しない。）。『羊を巡る冒険』では冒頭、彼女と僕がICUの三鷹キャンパスの芝生で寝転がる。『国境の南、太陽の西』で幼なじみの島本さんと再会する場所、『ダンス・ダンス・ダンス』で僕が13歳の少女ユキと過ごす場所、同級生だった五反田君と飲む場所は、いずれも渋谷、青山周辺である。



『ノルウェーの森』から。市ヶ谷駅付近。ワタナベは直子と中央線の車内で偶然再会し、四ツ谷から駒込まで歩く。

『ねじまき鳥クロニクル』は世田谷が舞台だ（世田谷が登場するのは、村上作品において後にも先にも本作品だけである。）。『海辺のカフカ』では、ナカ

タさんが中野区の野方で猫を探している。『1 Q84』は、首都高3号線と中央線、青梅街道を中心にストーリーが展開していく。都内は、ハルキストが巡礼すべき聖地で溢れているのだ。

### 『ノルウェーの森』とワタナベトル

『ノルウェーの森』は、ルフトハンザ機がハンブルク空港に到着し、搭乗していた37歳のワタナベトルが喪失感に襲われる場面から始まる。「少しも薄れることのない記憶などない」と回想しながら、恋人だった直子との約束を果たせずに忘れていく過去について語られる物語である。

最初の巡礼地は、その主人公ワタナベが神戸から上京し、大学入学とともに住み始めた学生寮。最寄りには山手線目白駅である。東へ学習院大学のある通りに沿って20分程度歩く。小説にあるとおり、不便な場所だ。しかし、都心の真ん中にあるとは思えないほど、広大な敷地で緑も多い。ぼくは、ワタナベと同じ部屋に暮らす突撃隊がラジオ体操する姿を想像する。彼は果たして実在したのだろうか。



寮の正門。寮の建物は緑の奥にあり、ここからは見えない。

次に、早稲田から都電に乗った。ワタナベと同じ大学の女友達である小林緑の実家、小林書店のある大塚に向かう。途中、「季節外れのラップスイセンを買うのだった。土曜日の午後に火事が起こるのだー。」などとあらすじをなぞるうち、ワタナベと緑が新宿

の紀伊國屋書店の裏手にあるジャズバー「DUG」にも度々、足を運んでいることを思い出した。



都電早稲田駅

### 『1 Q84』と青豆と天吾と2つの月

『1 Q84』は、10歳の時に人影のない教室で一度だけ手を強く握り合い、その後、何もないまま別々の人生を歩む青豆と天吾の、30歳前後の日々を描いた物語である。青豆と天吾の2つのストーリーが同時並行で進んでいく。次の巡礼地に選んだのは、そんな2人が再会する場所、滑り台のある児童公園である。中央線に乗って高円寺駅で下り、南口から東に向けて歩く。ほどなく目的の公園に到着した。

児童公園では、青豆を捜すことを始めた天吾が滑り台から見上げた夜空に、2つの月を目撃する。17歳の少女“ふかえり”こと深田絵里子が書いた『空気さなぎ』の世界に、何らかの原因で引き込まれたことを天吾が知るのである。そのとき、青豆は隠れていたマンションの一室から月を見上げる天吾を発見する。ぼくは、滑り台の端に座ってみた。青豆が意を決してマンションから天吾を追い、飛び出してくる様子を思い浮かべた。



高円寺中央公園。奥に見えるマンションが、青豆が潜んだ場所なのだろうか。

再び中央線の列車に乗り込み、ぼくは次の巡礼地へと移動する。『空気さなぎ』が誕生した二俣尾に足

を伸ばすためだ。そこでは、独自のコミュニティを形成し、集団生活を送る団体「さきがけ」から逃げ出した10歳のふかえりが、現在に至るまで戎野先生やその娘のアザミと暮らしている。立川駅で青梅線に乗り換え、青梅駅を超える。奥多摩と呼ばれるこの周辺は、トレッキング客で賑わう車内から一步外へ踏み出すと、東京都とは思えないほどの静寂に包まれていた。この物語が、より深いところから引き出されてきたものであるような感覚を覚えた。



二俣尾駅

### 巡礼のつづき

巡礼から帰る途中、青山の紀伊國屋に寄った。『ダンス・ダンス・ダンス』で僕が語る「良く調教されたレタス」を見つけるためである。帰りの電車の中でぼくは、東京を飛び出して巡礼することを考え始める。甲村図書館を探しに、四国へ行くのはどうだろうか。『海辺のカフカ』では、主人公田村カフカも、ナカタさんもそこに向けて出かけたのだ。また、京都を訪れ、直子とレイコさんが過ごした阿美寮を探す巡礼もよい。きっと、冬に出かけるのがいいだろう。



青山の紀伊國屋。新鮮な野菜が並んでいた。

# チャリティー

水 崎 慎 (P A会)

私はチャリティーイベントに参加することが時々あります。チャリティーイベントとは、寄付金を募るためにボランティア団体が主催する様々な催し物です。友人と参加することもあれば、アポなしのいわゆる“飛び込み”で参加することもあります。こういう話題になると、人から「なぜチャリティーを？」とよくきかれます。理由なんてあるのでしょうか。突然倒れた人を周りの人達が協力して助けたという類のニュースをよく聞きます。そういうのは、きっと反射的であって理由があるわけではありません。ですから、そういうことが目の前ではなく離れた場所で起きたと考えれば、チャリティーに理由があるわけではないのだと思います。

## <東日本大震災>

東北地方が地震と津波に襲われた2011年3月11日以降、1年に2、3回ですが週末を使って東北を訪れます。初めて訪れたのは2011年5月、岩手県の沿岸部にある野田村です。ボランティアバス（通称ボラバス）で現地に向かう途中、被災した街を通りました。廃墟が地平線まで続いていました。普段見たことがない戦車や、迷彩色の服を着た自衛隊が遠くの方の立ち入り禁止区域で右往左往しているのが見えました。映画で見た戦場のようでした。現地ではガレキの撤去やドブさらいが私たちの主な仕事でした。ガレキの中から、名前入りの服やアルバム類がたくさん見つかりました。数十のチームで朝から夕方まで働いても片付いたのは数百メートル程度の範囲でした。完全に復興するまでに10年かかると聞いたことがありましたが、よくわかりました。作業中、地元の方から缶コーヒーやお茶の差し入れが3度もありました。作業をする毎に近くに住む方々が差し入れてくれるのです。ありがたい反面、非力さに申

し訳ない気持ちにもなりました。

宮城の亘理町や南三陸町にも訪れました。亘理町はイチゴの生産地なので、イチゴ農家がたくさんあります。ですが津波によって8割以上の農家がビニルハウスを失いました。亘理町での仕事は散乱したゴミを回収することから始まりました。ゴミといってもバラバラになった家屋の破片や、割れた食器などです。それが終わると耕運機で細かいゴミを掘り起こします。そしてそのゴミを回収して…、これの繰り返しです。それが終わるとビニルハウスを建てます。やってみてわかりましたが、実はこれがすごく難しいのです。金属パイプを縦横均等に固定して数十メートル繋げなければなりません。ご老人が多い農家でこんな力仕事ができるわけがありません。やはり誰かの助けが必要なのです。

南三陸町はたくさんのボランティア団体が集まる場所でした。復興市場というのがあって、プレハブのお店がたくさん集まって小さな市場になっています。飲食店やお土産屋さんがあって多くのボランティア団体や地元の方々が賑わっていました。ここでは珍しいサメの心臓を酢味噌でいただきました。あえてノーコメントです。ぜひ試してください。南三陸での主な仕事はメカブやワカメの収穫作業の手伝いでした。ワカメといえどキロ単位だと大変な作業でした。こちらでも帰りにお土産として地元の方がワカメとメカブを持たせてくれました。ありがとうございました。

## <チャリティーラン>

ともに弁理士試験の受験勉強をしていたときからの友人が所属しているボランティア団体が、チャリティーイベントの一つとしてマラソン大会を毎年開催しています。4月頃に開催され、子供から大人ま

で5000人以上が参加する大きなイベントです。友人を通じて集まった仲間とともに私も毎年参加するようになりました。参加者には“青いTシャツ”が配られるので全員お揃いのかっこうになります。Tシャツには「世界の子供たちを救うRUN」というメッセージが書かれています。河川敷に広がる会場は、軽食やグッズの販売、マッサージやワークショップなどのブースが並んでお祭りのように賑やかな雰囲気です。コースは幼児向けの400メートルランから、1キロ、5キロ、10キロ、ハーフマラソンまであります。私たちが参加するのは10キロランです。走ったことがある方はわかるでしょうが、「走れ」と突然いわれて走ることができる距離はせいぜい5キロ程度です。練習もなしに走る距離として10キロはかなりしんどいです。日ごろからある程度トレーニングをしなくてはなりません。前年の記録を更新することを毎年の目標にしています。

沿道では多くのボランティアスタッフやギャラリーが声をかけながらハイタッチしてくれます。実はゼッケンにニックネームを書く欄があって、みんなニックネームで声をかけてくれるのです。こういうコミュニケーションがあると普段よりもがんばるので不思議です。ゼッケンさえ付けていれば走る際の服装は自由なので、仮装で参加するランナーもたくさんいます。もちろん給水所もあります。

走った後はみんなで近所の銭湯にいきます。汗を流した後は打ち上げです。

なお、募った寄付金は主にアジアの孤児院に贈られ、孤児の就学支援などに充てられているそうです。

### <マザーテレサハウス>

インドに行ったとき、マザーテレサハウスを訪れました。インドといえばタージマハル、ガンジス河、そしてマザーテレサです。マザーテレサはコルカタの修道女で、インドには彼女に因んで銘打ったボランティア施設があります。それがマザーテレサハウスです。インドにいくつかあるマザーテレサハウスうちの 하나가、ガンジス河が流れるバラナシという街にあります。正確に言えば、バラナシに行ったら、たまたまそこにありました。見つけられたのは偶然なの

でしょうが私は必然だと思っています。そう思う理由を、マザーテレサハウスでの体験を交えて書きます。

バラナシの宿で一人の日本人に話しかけられました。聞けば同じ宿に泊まっていた彼女は、毎日マザーテレサハウスに通って家事を手伝っているといいます。次の日の朝、彼女とマザーテレサハウスを訪れました。そこは身寄りのないお年寄りが集まる施設でした。洗濯機がないので手で服やシーツを洗い、手作りのモップで床を磨きました。中国人、韓国人、スペイン人がボランティアとして同じように働いていました。家事を終えて宿に戻り、若干飽きてきたカレーを食べた後、同じ宿に泊まっていた大学生が加わって3人で少し離れた街にある孤児院を訪れました。そこもマザーテレサハウスです。身体障害者の孤児だけが集められた施設でした。言葉が通じないばかりか、何を思っているのかさえもわからないのですが、抱き上げられるだけで子供たちが喜んでいただけはわかりました。体が宙に浮くだけで喜ぶなんて、大人に遊んでもらう機会が極端に少ないせいだと思いました。夕方、孤児院を後にし、その日の夜、私は寝台車でニューデリーに戻りました。

同じ宿にいた彼女はなぜ私に話しかけてきたのでしょうか。私が宿に着いてすぐ、バラナシにマザーテレサハウスがないかを宿の従業員に尋ねていたのが聞こえたからだそうです。そして私がそのとき着ていた“青いTシャツ”に書かれたメッセージを見たからだそうです。“青いTシャツ”を着ていなくても似たようなことはタイでもカンボジアでも起こりました。行き当たりばったりでしたがどの国でも孤児たちに会って彼らと遊ぶことができました。

目的を達成するというのは、強く想うところから始まります。外国を訪れるとき、私は世界遺産を意識し、特に新興国ではボランティア活動を意識します。意識が違えば同じ景色でも違って見えてきます。目的を達成させることへの強い意志は無意識に行動に表れ、私に“青いTシャツ”を選ばせたのだと思います。そして見えない意志に惹かれて似たような目的を持った人たちが集まってきたのだと思います。

被災地の復興、孤児たちの支援、強く想えば目的は必ず達成できます。

# 登山初心者

工藤 貴宏 (無名会)

## はじめに

日頃のデスクワークのせい、運動不足であると感じていました。スポーツジムで体を動かしたり、ウォーキングもしていますが、なかなか思うように解消しません。

私の知人に登山好きがおりまして、登山をしてみようかと勧められました。登山は中学生の時の林間学校以来なので、正直やる気はありませんでした。しかし、知人の熱い登山話を聞いているうちに心を動かされ、騙されたと思ってやってみることにしました。

とはいってもほとんど初心者なので、まずは自分がどの程度まで登れるのかを知るために筑波山にチャレンジしてきました。

## 御幸ヶ原コース

筑波山は自宅から車で、1時間弱で行ける山なので朝6時半に出発し、8時前に筑波山神社に到着するよう予定を立てました。また、今回の登山コースは数あるコースの中から男体山側の御幸ヶ原コース



御幸ヶ原コースのスタート地点

(距離：約2.5km 標高差：約610m 登り90分／下り70分)に決めました。

8月下旬ということもあり、まだまだ暑さが心配でしたが、この日の天気は曇りで登山にはちょうどよい天気でした。



まだまだ序盤です

さて、御幸ヶ原コースのスタート地点を8時過ぎに出発し、登山開始です。登りの所要時間が90分ということで、のんびり行けば楽勝だろうとかなり楽観的に構えていました。しかし、以外に険しい…。木の根が剥き出しになったデコボコした道が待ち構えていました。あちこちで段差が激しい箇所があり、序盤の30分で早くも息が切れだし、苦戦を強いられました。

まだ30分しか経っていないのにこんな状態で果たして登れるのだろうかと思いつつも、引き返すわけにはいきません。朝早めということもあり、他の登山者は比較的少なかったため、息を整えながらペースを落とすことにしました。

途中、数ヶ所の休憩所らしいベンチにはかなり助

けられました。下山している登山者とあいさつを交わしながら休んでいると、今度は雨が降ってきました。上空の木々のおかげでずぶ濡れは免れましたが、なんだか急かされた気分です。



あと少し…

雨の中かなりのスローペースで登って行きましたが、足元が不安定な道のためあまり周りの景色を楽しむ余裕がありませんでした。コース中の見所が何か所かあったみたいですが、気づかずに通り過ぎてしまったようです。

開始から1時間位経ったでしょうか、ようやく御幸ヶ原までの案内板を見つけました。「0.5km…、あと30分ぐらい…か。」そんなどうでもよい計算をしながら悲鳴を上げている両足に気合を入れ、黙々と登る。気づけば雨も止み、無事御幸ヶ原に到着しました。

### 御幸ヶ原

御幸ヶ原は男体山頂への中継点のような場所のようで、ケーブルカーの山頂駅や数々のお店があります。男体山頂まで15分ということでしたが、山頂はまた次回にチャレンジということで、とにかく水分補給と一服です。雨も止み、過ごしやすかったのですが、関東平野が雲で覆われていたので、その景色を眺めることができませんでした。こちらも次回にすることにしました。



晴れていれば良い眺めです

休憩後ぶらぶら散策していると、「紫峰杉」なる案内板を発見。案内板に従って進んでいくとそれらしき巨大な杉の木が見えました。近くの説明板を読んでもみると、どうやら筑波山の雅称である紫峰の杉から名づけられたそうです。



推定樹齢800年の紫峰杉

### 終わりに

今回の登山は自分の体力を知るお試的なものでしたが、運動不足を再認識したことはもちろん、登山の楽しさを知ることができました。次の目標は男体山頂と少しずつハードルを上げていき、まずは筑波山の全コースを制覇しようと思い、ゆくゆくは富士山頂を目指したいと考えた次第です。また機会がありましたらこのような場で掲載したいと思います。

# ラフティング体験

三井直人（無名会）

## <はじめに>

昨年弁理士試験に合格し、今年の4月に弁理士登録をしたばかりにも関わらず、はやくも「会員だより」に投稿する機会を頂き、プレッシャーを感じながらも受けさせていただきました。

この原稿を書いているのはまだまだ非常に暑い9月の初めです。ここ数年は弁理士試験の勉強で、時間的・気持ち的な余裕がなかった為、暑い時期に夏らしい遊びを楽しんだ記憶がありません。今年はやっと試験勉強からは解放され、その点では少し肩の荷が下り、夏の間を楽しく過ごすことができました。また、試験合格後の実務修習や実務修習終了後の懇親会、さらには各会派主催の合格祝賀会等を通じ、多くの同期合格者とのつながりもでき、皆さんの企画して下さった様々な楽しい企画にも参加をさせて頂くことができました。

同期合格者の親睦を深める飲み会に始まり、登山やバーベキュー、ボルダリング、フィールドアスレチック、リレーマラソン等、これまで数多くの企画に非常に楽しく参加させて頂きましたが、今回はその中でも8月末にチャレンジし、夏の良い思い出となった、初めてのラフティング体験について書かせて頂きたいと思います。



## <ラフティングについて>

ご存じの方も多いかもかもしれませんが、ラフティングはラフトという複数人乗りの特殊なゴムボートに乗り、ライフジャケット等を着用の上で川下りするアウトドアスポーツです。流れの速さや水量によりその激しさは様々ですが、自然を満喫しつつスリルと爽快感を味わうことができます。

今回総勢11名の弁理士試験合格同期で参加したラフティングツアーは、ラフティングツアー企画業者が一般向けにレジャーとして行っているものであり、現在では全国各地で体験することができます。関東では群馬県の上水、埼玉県の上水、東京都の奥多摩などが有名なようですが、今回は東京都内から電車で比較的のアクセスがよい奥多摩でラフティングにチャレンジしました。

## <ラフティング体験>

奥多摩でラフティングツアーを企画している業者はいくつもあるようです。今回は青梅線の御嵩駅からほど近い業者のもとへ向かいました。

御嵩駅までは新宿駅からでも約一時間半程度、私は途中の立川駅から他の参加者と合流し、お互いの近況報告や歓談をしつつ向かいます。

当日は台風の影響で天候が非常に心配されていましたが、まさかの快晴。夏とはいえ冷たいであろう川に入るにはちょうど良さそうな天候です。

青梅線を乗り継いで目的の御嵩駅に着いた後、まずは駅から数分歩き、ラフティングツアー業者のもとへ向かいます。到着後、怪我をしてもうんぬんという文面を若干気にしつつも誓約書にサインをし、水にぬれても良い服装に着替え、ライフジャケット、ヘルメット、シューズ等を装着します。

準備が整った後、しばらく川沿いを歩きボートと

ご対面です。頭の中で思い浮かべていた空気を入れて使用するゴムボートとは違い、かなり固くて重いがっしりとした作りになっています。

今回の参加者は総勢11名。二つのボートを貸し切りです。まずは、ツアーガイドさんに、ボートを漕ぐパドルの扱いや水に落ちた時の姿勢等々、一通りの説明を受けます。これを聞きながら、考えてみると川に入るのはおそらく十年ぶり位である事に気づき、若干の不安がよぎります。



説明を受けた後は、まずは身体をならすために少し川に入ってみますが、やはり夏とはいえ川の水は冷たい！体を多少水に慣らした後、全員ボートに乗り込みいよいよスタートです。この日はツアーガイドさんが何度も言っていたように、川の水が少なめだったようで、ところどころでボートが引っ掛かりつつも下り始めます。

当日は晴天だったためか、他のラフティングのグループや水遊びをする人、釣り人等多く見られ、それを避けつつ進みます。ちなみに、この日はカヌーに乗った方が多く、ガイドさんの話によれば、2013年の国体のカヌー競技の開催場所である為との事。オリンピックなどで少し見たことのあるスラローム用のポール等も設置されていました。

その間を縫って進み、若干川の深さも増してきたところで第一のサプライズ。少し前にそれらしき予告はあったものの、ガイドさんに引っぱられ川に落とされます。ライフジャケットをしている事もすっかり忘れ、出発前に説明をうけた落下後の姿勢もとれずにあわてましたが、落ち着いて見れば十分足の

着く深さ。ボートの上に残るみんなも徐々に落とされ、結局はボート上の全員が水の中に。集合写真等を取りつつしばらく冷たい川の水につかりました。

その後も、川を下りつつ、途中途中でボートを使っのシーソーゲームや岩の上からの飛び込み、ツアーガイドさんのサプライズでのボート転覆などもあり何度も水の中へ。童心に帰って川遊びを存分に楽しむことができました。

そうこうするうちにあっという間にボートはゴール地点へ到着。約2時間の初めてのラフティング体験は終了しました。



#### <ラフティング終了後>

朝早くの出発だったため、存分にラフティングを楽しんだとはいえまだ時間はお昼すぎ、お昼ご飯も兼ねて近場にある奥多摩の酒造メーカーへ向かいます。奥多摩に酒造メーカーがあるという話は聞いた事はありませんでしたが、訪問するのは初めてです。軽くご飯を食べつつ、日本酒の試飲を少々。残念ながら、お目当ての奥多摩の水を使用して作った豆腐料理は、既に受付が終了しており食べることができなかつたため、いずれまた訪れてみたいと思います。

その後は皆で新宿まで移動し、楽しい一日を振り返りつつお酒を飲み、奥多摩でのラフティング体験の旅は終了しました。

#### <おわりに>

川遊びが非常に久しぶりだったことや、ラフティングといえば激流下りのイメージがあり、体験する

前はドキドキでした。しかし、今回は水量が少なかったという事もあるのか、心配をしていたほどではなく、奥多摩の自然を存分に楽しみつつ、川遊びを十分に楽しむことができました。ぜひともまたチャレンジしてみたいと思います。興味をもたれた方はぜひ体験してみてください。

最後に、今回のラフティングに限らず、日頃様々

な企画を率先してまとめ、誘ってくださる同期の皆さんに、この場を借りて感謝を申し上げたいと思います。同じ年度に合格したのも何かの縁、仕事の面において切磋琢磨するのはもちろんの事、それ以外の面においても、これからも親睦を深め、未長いお付き合いをして頂ければと思います。

# ミュンヘン特許事務所 インターン回想記

増田綾香（無名会）

## 1. はじめに

私は2003年5月から12月までの8か月間、100年以上の歴史あるミュンヘンの特許事務所にてインターンとして働きました。異文化経験以上に、職場である特許事務所という場における様々な違いに、驚くことの連続でした。あっという間にかれこれ10年も前のこととなりますが、大変貴重な経験ができたと思っております。今回折角このような機会を頂きましたので、その日々を少し振り返ってみたいと思います。

## 2. 仕事のスタイル

欧米の事務所はどこもそうですが、パートナーやアソシエイトは皆それぞれ独立した個室が与えられ（しかも広い!）そこで仕事をするので、周りに影響されることなく静かでよい環境の中、とても集中して仕事を行うことができます。また、ドイツの事務所では、事務や管理担当、インターンにも2人一部屋が与えられ、そこで仕事をしています。これは、ドイツの建物と仕事の方法が関係しているのではないかと思います。まず、ドイツではAltbauという古い建物が歴史ある良い建物とされ好まれますが、そういった建物は往々にして細かい部屋に分かれています。また、欧州の弁理士は文章をすべて口述し（手紙を含め書類全般）、そのテープを秘書が聴き取りタイプするため、部屋は2人くらいが限度なのではないかと考えられます。各パートナー弁理士には1~2人の秘書がつき、テープ起こしをして書簡を作成する等、様々な事務関係の仕事を行います。

仕事は集中してさっさと終わらせ、たっぷり休暇をとる！これがドイツ人のスタイルです。Urlaub(ウアラウプ)という有給休暇は、最低30日以上あり、夏に2~3週間、冬に1~2週間、さらに秋休みに1週間程度旅行に行くのが通常で、天気の話の次

にでてくる話題は、「休みは何をしたの?」「次の旅行はどこに行くの?」というウアラウプに関する話です。バカンス先として人気なのは、やはり海やビーチがあり、食事が美味しいところです。トルコやスペインをはじめ、イタリアなども大変人気で、夏休みを終えるといい色に日焼けしていることも、一種のステータスのようでした。特にミュンヘンは車で半日もいけば、オーストリアやスイスを超えて、イタリアやフランスにも行けるため、イタリアの山中に別荘を持つパートナーに、週末招かれて皆で行くこともありました。

## 3. 暑い日には…

今年の夏は40度を超す日々が続く猛暑でした。熱中症で病院に運ばれた人の一人にいつ自分がカウントされるか怯えつつ、サウナのような外から、冷房の効いた涼しい事務所に着くと毎日ホッとしたものです。

日本は節電といっても職場にクーラーがないというのはあり得ませんが、ドイツでは基本的に自宅にも職場にもクーラーはありません。厳しい冬の寒さのために、パイプの中を温かい油（もしくは水）が通って部屋を暖めるHeizung（ハイツング）と呼ばれる暖房器具は、最初からほとんどの建物内部に取り付けられているのですが、冷房があるのは車かデパートくらいです。ドイツでは湿度が低く乾燥しているので、日蔭や地下などは夏でも涼しいのですが、この世界的異常気象で、真夏はやはり暑いのです。

「クーラーがないなんて信じられない!」と文句をいうのは私くらいなもので、ドイツ人の同僚達は「今日も暑くなりそうね~。」なんて涼しい顔をしています。それもそのはず。ドイツの学校や職場にはHitzefrei（ヒッツェフライ）という猛暑休みがあるのです! ドイツでは法律上職場の温度は26度を

超えてはならないという規則があり、外の気温が30度を超えると事務所もHitzefreiで、午後1時くらいから皆帰ってしまいます。暑いと集中できず、生産性が落ちるから致し方ないというのが表向きの理由ですが、木陰にある涼しく開放的なビアガーデンで、短い夏を謳歌しようというのが本音ではないかと思われまます。

もちろん、そんな中でも期限に追われ、仕事をどっさり抱えたパートナー達は、休むわけにはいきません。部屋のブラインドを朝からずっと閉めて、日差しが入らないようにし、真っ暗な中デスクランプ一つで明細書を書くとか、自宅に地下室がある人は、地下室に机を置きそこで仕事をするなど、彼らの工夫は涙ぐましいまでです。弁理士たるもの、猛暑だろうが期限だけは死守しなくてはならないのです。

#### 4. Oktoberfest (オクトーバーフェスト)

ドイツといえばビールが代名詞の一つであり、世界最大級の民族ビール祭りといえば、ミュンヘンで行われるオクトーバーフェストです。毎年、10月の第1日曜日を最終日とする16日間行われますが、東京ドーム約9個分の敷地に、大小20以上のビールテント、遊園地並みのお化け屋敷やジェットコースター、土産物屋が立ち並び、世界中から600万人以上の人が会場を訪れるとされています。

ミュンヘンの人々はこのお祭りを、会場であるTheresienwieseの省略形で、「Wiesn」(ヴィーズン)と呼びます。8月末から会場にテントの設営が始まると、事務所内でも「9月〇日は事務所でWiesnのテーブルを予約したので、参加希望の方はどうぞ！」などというお誘いがかかります。ドイツ人にとってもノミニケーションは大切に、事務所で誕生日を祝ってもらったり、クリスマス会ではパートナーも所員も全員参加で出し物をしたりと、パートナー・所員の区別なく機会を作ってパーティーをしているのですが、その中でもWiesnは特別なようです。オクトーバーフェスト開催中は皆、同僚と、海外からのクライアントと、家族と、友人と何度も会場を訪れます。会場ではこのお祭りの期間だけしか飲めない、通常よりややアルコール度数が高いFestbier(フェストビール)も楽しめますが、なによりもそれぞれ趣向が凝らされたテントの中、生バンドの演奏にのって

誰もが知っている懐かしのメロディーを一緒に歌って、踊り楽しむというのが、一番の目的のようです。

ドイツ人は男女問わず基本的によくビールを飲むのですが、あまり沢山は飲めないという人にとっては、オクトーバーフェストのテントで売られているビールは若干の問題があります。というのも、ビールのサイズは1リットルジョッキの1サイズのみ！持つのも重いし、飲みきるまでに時間がかかれば、折角の特製フェストビールも生ぬるいやや炭酸の抜け始めた美味しくないものとなってしまいます。そこで、私が好んでよく頼んでいたのは、Radler(ラドラー)というビールとレモネードを半々に割ったものでした。爽やかな甘さとビールの苦みが程よくマッチして、とでも飲みやすく美味しいのです。Radlerはドイツ語で自転車乗りという意味で、サイクリングが盛んなドイツで一日100キロ以上を走るような愛好家たちが、休憩時に飲むのに好まれたことからこの名前がついているようです。ただし、このとってもおいしいラドラー、ひとつだけ難点があります。ドイツ語のRの発音は、喉の奥を鳴らすように出す日本人にとっては実に難しい発音のため、なかなか通じません。皆様がドイツに行かれてこのラドラーを試されたいときには、どうぞRadlerと書いたメモを差し出して、「Bitte(ピッテ)！」(お願いします)と注文されてみてください。

#### 5. 最後に

ミュンヘンはドイツ特許商標庁及び欧州特許庁を有し、ヨーロッパにおける知的財産の中心地であり、私もミュンヘンの特許事務所でのインターン生活の間、ドイツ人弁理士及び審査官達の仕事や生活を肌身に感じられたことは何よりもの財産となりました。

特に印象的であったのは、仕事への熱意と同時に、プライベートの生活や周囲とのコミュニケーションを大切にして、心身ともにバランスのとれた人生を送ることを理想としている彼らの考え方でした。日本に帰国する際は、決してこの理想を忘れないようにしようと心に刻んでおいたつもりでしたが、日々の仕事に忙殺され忘れかけていました。今回この原稿を書きながら思いだした、緑の木々あふれる公園風景を胸に、ドイツ人のように仕事もプライベートも充実した人生を目指していきたいと思っております。

# ワタシの趣味

本 間 博 行 (無名会)

## <はじめに>

あれは今年の7月下旬のことでした。私が事務所に出勤すると、「無名会 中村先生より連絡あり」との伝言メモが目に入りました。その後、間もなく中村先生（日本弁理士クラブ会報委員会）からご連絡をいただき、「会員便り」の執筆についてご指名を賜りました。ご依頼いただいた瞬間、「ま、まずい。どうしよう」と心の中でそう呟きました。というのは、これといって人様に紹介できるような面白ネタを持ち合わせていなかったからです。

とはいったものの（心の中で呟いたものの）、日頃お世話になっている会派の先生からのご依頼をお断りする訳にもいかず、ありがたく寄稿させて頂くことになりました。

せっかくこのような機会をいただけたのですから、この機会を利用して私が現在ハマっている趣味について幾つかご紹介させていただこうと思いますので、少々お付き合い下さい。

## <ゴルフ>

私がゴルフを始めてから、かれこれ5年の月日が経過しました。ゴルフとの出会いは、受験時代にLECと一緒に通っていた仲間とお酒を飲んでいる際に誘われたのがきっかけでした。その頃、私もゴルフになんとなく興味を持っていましたので、是非とも！と二つ返事をしたのですが、まさか1ヵ月後に初ラウンドの約束をする羽目になるとは思いもよりませんでした。

ゴルフクラブは、友人が以前使っていたお古をお借りすることができましたので、週末はご近所のゴルフ練習場に通うという1ヶ月を経て、念願の？ゴルフデビューを果たしました。

デビュー戦のスコアはたしか130くらいだったかと記憶しております。ゴルフと出会ってから早5年、現在の腕前はというと恥ずかしながら100を切った

り切らなかつたり、上達のプレイクスルーは当分先になりそうです。

ここで、ゴルフ場でラウンドすることの魅力について、思うままに書き綴りたいと思います。

### ① ストレス解消

クラブでボールを打つ。ただそれだけなのに、ラウンドが終了するころにはストレスが解消され、清々しい気持ちになれます。

それは、緑に囲まれた非日常空間に身を置き、澄んだ空気の中で森林から放たれるマイナスイオンを全身に浴びながらプレーを楽しむことで、気分がリフレッシュされるからでしょうか。

また、1ラウンドに1回あるかどうかですが、ドライバーが真っ直ぐ思い通りの弾道で打てた時の爽快感といったら、何事にもかえがたく、その1球のためにゴルフ場に足を運んでいるようなものとも言えます。

### ② 健康維持

ゴルフは歩くスポーツと言われているように、ラウンドに出れば7～8kmほどの距離を歩くそうです。近年はカートの普及によって自分で歩かなくても済みますが、普段の運動不足を少しでも解消しようとなるべくカートに乗らないように心掛けています。

### ③ 人間関係の潤滑油

ゴルフは老若男女だれでも楽しめ、世代や性別を超えて仲間を作ることができる素晴らしいスポーツです。一緒にラウンドすることで仲間意識も高めることができます。

酷暑だった夏も終わり、熱中症の心配なくゴルフを楽しめる季節がようやくやってきました。この秋は、今まで行った事のないエリアでのラウンドを計画中です。



ゴルフ仲間とのラウンド風景

### <晩酌>

私は、お酒を飲むのが好きです。昔は「外飲み派」でしたが、今はもっぱら「家飲み派」で、毎日の晩酌は欠かしません。その甲斐あってか、この業界に入ってからというもの、体型の肥大化傾向が止まらないのが悩みの種です（本当に困ったものです）。

最近、ビールと一緒に食べるスナック菓子等が宜しくないことを学習し、ウイスキーやブランデー等の蒸留酒を飲み始めました。ウイスキーは、オン・ザ・ロックかハイボールにすることが多いです。ハイボールにするときは、炭酸が逃げないようにかき混ぜすぎないことがポイントです。

また、香りが立ちにくくなるため邪道かもしれませんがブランデーのオン・ザ・ロックもお気に入りです。

また、毎年作る自家製梅酒もお気に入りです。6月中旬に自宅の梅の木から実をもぎ取り、氷砂糖とホワイトリカーで漬けます。今年は、5才の長女が頼もしい助っ人として参戦してくれたので楽しみながら梅の実を収穫することができました。

梅酒は、漬けて2ヶ月目くらいから飲むことができますが、長く漬けたものほど味わいが深



最近のお気に入り達

くなります。

### <昆虫飼育>

この夏は、事務所の先輩弁理士のT先生にカブトムシとクワガタ（ノコギリクワガタ、オオクワガタ各1匹）を頂いたので、飼育に挑戦してみました。ペットの飼育と云ったら、子供の頃に熱帯魚を飼ったことがあるくらいで、カブトムシやクワガタの飼育は初心者ですが、やることと言えば、数日に1回、餌を新しいものに交換し、霧吹きでマット（おがくず）を湿らせるくらいで比較的簡単に飼育することができます。最近は「昆虫ゼリー」という便利な餌があり、わざわざ果物を用意する必要がなく、私も昆虫ゼリーのお世話になっております。

カブトムシもクワガタも夜行性であり、昼間はマット深く潜って姿を見ることができませんが、仕事から帰宅後にカブト君&クワちゃん達がお出迎えしてくれるので、けっこう癒されます。

カブトムシとクワガタの寿命は、クワガタの方が長生きと言われています。残念ながら、我が家のカブトムシも寿命のため8月の終わりに死んでしまいました。長女は、カブトムシの死を大変残念がり、悲しみましたが、同時に命の大切さを実感できたようでした。

クワガタはうまくいけば越冬するらしいので、しっかり育てていこうと思います。また、来年はペアで飼育して繁殖にもチャレンジしてみたいと考えています。



昆虫ゼリーを食事中的ノコギリクワガタ

### <おわりに>

とりとめなく語らせていただきましたが、最後までお付き合いいただき有難うございました。